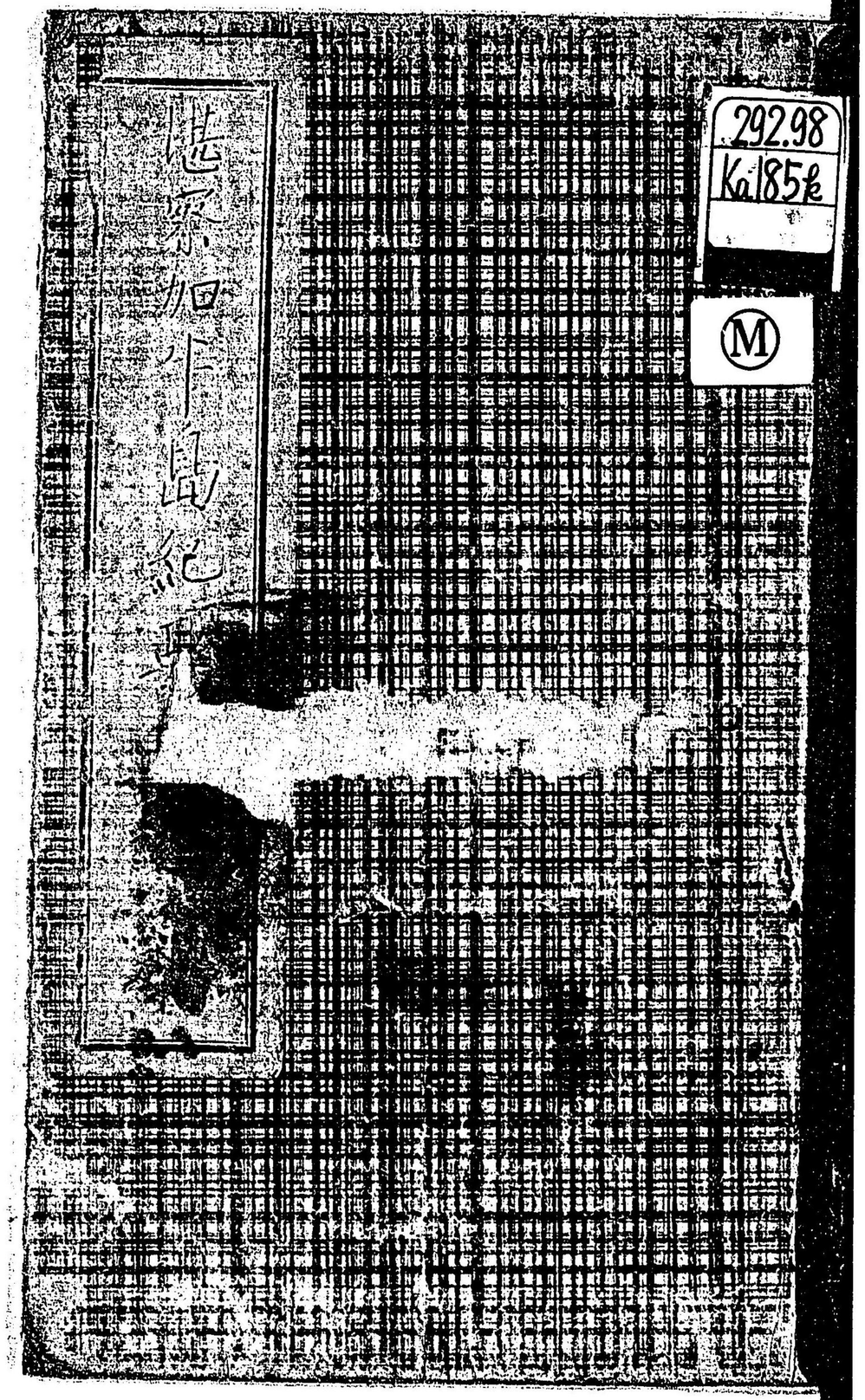


292.98
Ka185k
Ⓜ

026720-000-4

292.98-Ka185k

堪察加半島紀要

海軍軍令部

M27
ADD-0416

司令長官
高
参謀長
参謀副官

堪察加半島紀要

海軍軍令部

法律文科

292.98 K185k

本書ハ横濱税關月報附錄屋代事務官補倉岡監吏露領堪察加出張復命書ヲ大藏省ノ承諾ヲ經テ飜刻セルモノナリ此中全然通商ニ渉ル事項ハ之レヲ省略セリ

末尾ニ附セル堪察加半島紀要ハ露國ノ記錄ヨリ抄譯シタルモノナリ

明治三十七年八月

海軍軍令部

国立国会図書館 27.8.-7

275116

堪察加半島紀要目次

屋代事務官補出張復命書ノ部

第一編　地理的概況……一頁

第一章　總論……一

第二章　港灣ノ狀況……八

總論……八

第三章　河川ノ狀況……十三

總論……十三

第四章　陸地交通ノ概況……二十

第五章　堪察加ノ地理的沿岸……二十三

第二編　生產物ノ概況……二十九

第一章　總論……二十九

第二章　狩獵……三十

第三章　漁業……三十七

目次

第四章　採鑛業……五十
第五章　製造業……五十二
第三編　出入船舶ノ狀況……五十五
第四編　堪察加ト本邦トノ關係……六十一
第一章　歷史的ノ關係……六十一
第二章　地理的關係……六十三
堪察加半島紀要……六十九
コマンドルスキー列島……八十

露領堪察加出張復命書

第一編　地理的概況

第一章　總論

地位　堪察加露領西比利亞東部ノ一大半島ニシテ沿海縣中ペトロパウルースクノ一郡ヲナス東經百五十五度四十五分ヨリ全百六十三度二十五分ニ亘リ北緯五十度五十分ヨリ全五十九度二十五分ニ至ル東ハ太平洋白令海ニ臨ミ西「オホツク」海ヲ擁シ南ハ尖頭「ロパトカ」岬ヨリ海上七浬ヲ隔テテ我千島ノ占守島ト相對シ其水道ヲ占守海峽ト名付ク露國人ハ之ヲ第一海峽ト稱ス北ハ西レースナ川ヨリ東カラガ川ニ沿ヘル一線ヲ以テギヲギンスク郡ト境ヲ接ス其廣袤東西二百七十哩南北六百哩ニシテ面積約十一萬方哩アリ

二、地質　半島ヲ形成スル地質ハ概ヲ火山岩ニシテ唯諸川ノ下流沿岸一帶ハ近古期第四紀層ノ水成岩ヨリ成ル今半島ノ火山系ヲ見ルニ南ヨリ北ニ延ヒ北緯五十三度ニ至リ二派ニ分レ一ハ北進シテギヲギンスク郡ニ亘リアナドイルニ至ル中央山系ニシテ堪察加山脈ト稱スルモノ之ナリ一ハ右行シテ堪察加河ノ右方ヲ沿フテ北進シ更ニ東ニ折レテ數多ノ島嶼ヲ起スヲ見ル此山脈ハ蓋シ太平洋沿岸火山系ノ一部ニシテ地質學者ノ所謂南洋諸島ヨリ臺灣、琉球、本洲諸島及千島群島ヲ經テ半島ニ入リ東部山脈トナリ半島ヲ蜿

蜒シクリウチエフスキー山ノ高峰ヲ起シ更ニ白令海ヲ横斷シテコマンドル列島及アリウシヤン群島ヲ作リ北米亞剌斯加半島ニ至ルモノ之ナリ

半島ノ火山總數三十八座アリ内十二座ハ活火山ニシテ他ハ熄火山ニ屬スクリウチエフスキー活火山(Klyuchevskian Sopka)ハ其高一萬六千呎ニシテ半島中ノ最高峰タリ其他低キモノモ尚五千呎ヲ下ラスペトロパウルースク府ノ東北約四十露里ニ二座ノ火山アリ右方ニアルハコセルスキー(Kocepeskii)一名アクチヤ(C. Aneya)ト稱スル活火山ニシテ高九千呎アリ左方ニアルハコリヤチキー(Kopyacki)ト稱スル熄火山ニシテ高一万五百呎アリアクチヤ火山ハ現ニ小官等ペトロパウルースク府滯在中本年七月二十日正午激烈ナル震動ト共ニ爆發シテ灰砂熔土ヲ噴出スルコト五日間ニ及ヘリ以上諸山嶽ニ包藏スル礦物ハ今尚充分ナル調査ヲ爲シタル者ナケレハ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ其ノ火山系ニ屬スルヨリ觀レハ硫黄ノ如キハ其包藏豊富ナルヲ想像スルニ難カラス現ニ露入クスーレナル人昨年初夏以來彼地ニ於テ礦物ノ探究採集ニ從事セルアリ仝人ノ小官ニ語リシ實話ニ依ル硫黄、石炭、銅、亞鉛及金等ノ礦脈ヲ發見セリト言ヘリ

三、水陸ノ形勢　半島ノ水陸ノ形勢ヲ見ルニ東西両岸ニ於テ著シキ差違アリ即チ東海岸ハ岩石崎嶇トシテ屈曲多ク西海岸ハ概ネ平坦直線ニシテ砂礫多シ蓋シ半島創成ノ時代地層ノ海岸ニ露出シタル軟キ部分ハ太平洋ノ怒濤ニ洗ハレ爲メニ東岸一帶ハ嶮巖絶壁トナリタレトモ西岸ハ數多ノ河流土砂ヲ流出シテ河口ニ門洲ヲ築キ水成岩ヲ形成シタルモノナラン水陸ノ形勢前記ノ如クナルヲ以テ東海岸ニ於テハ船舶ノ碇繫ニ便利ナル港灣アリト雖モ西海岸ハ沿岸一帶淺クシテ港灣ト稱スヘキモノナシ

四、氣候　半島ノ氣候ハ寒暑ノ差甚タシク懸隔シ夏冬ノ二期ニ分レ春秋ノ候ハ僅ニ一ケ月内外ニ過キス夏月ハ即チ六、七、八ノ三ケ月ニシテ他ハ幾ント雪ヲ以テ掩ハレ山河海灣到ル處氷結ス半島ノ長六百哩ニ亘レルヲ以テ其両端地方ニ於ケル寒暑自ラ相違スル所アルハ勿論ナルモ概シテ言ヘハ氣候寒冽ニシテ夏季ト雖モ掘氏寒暖計十二三度ヲ示シ稀ニ三十度以上ニ昇ルコトアリ冬期ハ氷點以下十二三度ニ下ル半島ノ南端ロパトカ岬ト北境レースナ川地方ニ於ケル寒暑ノ差平均五度ニシテ一ケ年ヲ通シ全土ノ平均氣候ハ三度ヲ示セリ

半島ノ晝夜ノ差ハ夏冬ノ二季ニ於テ著シキ差異アリ毎年三月及九月ノ下旬ニ於テ晝夜ノ平分ヲナスハ固ヨリ我國ト異ナル所ナキモ三月以后ハ晝間次第ニ長ク六月下旬ニ至リテ其極ニ達シ太陽已ニ沒シテ餘光尚存スル頃東雲將ニ曉ヲ報スルヲ見ル此頃ニ於テハ太陽ハ午前三時ニ出テ午后九時ニ沒シ晝間十八時間ニ對スル夜間僅ニ六時間ナリ之ニ反シテ十二月下旬ニ至レハ晝間六時間餘ニ對スル夜間十七時間餘ノ長キニ加フルニ此頃ニ至レハ連日降雪霏々四顧朦々トシテ日光ヲ見ルコト甚タ稀ニシテ住民ハ殆ント長夜ノ眠ヲ貪ルト言フ今ペトロパウルースク府ニ於ケル最近五ケ年間ノ平均溫度、氣壓、雨量、風位ヲ月別トシテ示セハ左表ノ如シ

月次	氣壓	氣溫	雨雪量	風向
一月	七四四・三〇	氷點下一二・〇〇	四吋四〇	北、
二月	七四八・一八	仝一二・六八	四・五〇	北、
三月	七四八・九〇	仝七・七四	七・六五	
四月	七四八・九〇	〇・二二	六・九〇	西北、
五月	七五〇・一四	四・七六	五・〇〇	西北、東南、
六月	七五三・二四	一〇・〇四	三・一四	西北、南、
七月	七四九・三六	一二・二八	二・〇八	西北、東南、
八月	七四九・九〇	一二・五二	二・五二	西北、不定、
九月	七四九・一〇	九・四六	四・八〇	西北、
十月	七四五・五四	四・三二	八・四三	西北、
十一月	七四二・二四	〇・七八	六・二三	西北、
十二月	七四二・六〇	氷點下八・五〇	五・四〇	東北、

以上ノ表ニ依リテ半島ノ溫度ヲ仝緯度ノ他邦ニ比較スルニ著シキ差異アルヲ認ム即大不列顛島トハ緯度ニ於テ幾ント相同シキモ溫度ニ於テ十度餘ノ差アルカ如シ是蓋シ潮流ト風位ノ二關係ニ基クモノナランカ

第一、潮流　北太平洋ヲ回ル暖流ハ赤道ノ北ヲ沿フテ西流シ比律賓諸島ニ至リ北折シテ我本洲ノ南東岸ヲ洗ヒ千島ニ至ル頃遠ク陸地ヲ離ルアリウシヤン列島附近ニ於テ白令海ノ冷潮ト合シテ北米ノ西岸ヨリ赤道暖流ニ復歸ス然ルニ北氷洋ノ冷潮ニ白令海峽ヲ出テ、堪察加半島ノ東岸ヲ浸シ一ハオホツク海ニ一ハ其針路ヲ南西ニ取リ千島ノ東岸ヲ流ル故ニ半島ハ常ニ冷潮ノ感應ヲ受ケ氣溫ノ下降ヲ示ス

第二、風位　白令海及オホツク海ニ於ケル風向ハ常ニ熱帶地方ノ低氣壓部ニ向テ進行セントスル北風ニシテ地球自轉ノ爲メ其風向ヲ少シク西ニ遍シ此ニ東北風ヲ起ス東北風ハ遠ク寒帶地方ヨリ來ル冷風ナルヲ以テ半島ノ氣溫低下スルヲ常トス故ニ半島ハ大不列顛島ノ如ク水陸ノ配置ニ由リ暖潮及溫風ノ感應ヲ受クルコト能ハス是レ大不列顛島ト半島トノ氣溫ニ非常ナル大差アル所由ナリ更ニ堪察加半島ノ東方海上ニ於ケル寒暖二潮流ハ濃霧ヲ生セシム之レ航海者ノ所謂「ガス」ナルモノナリ瓦斯ハ北太平洋西北部沿岸普通ノ現象ニシテ本邦北洲及千島沿岸ノ如キ亦然リ半島ニ在リテハ初夏ノ頃瓦斯ノ發現多ク殊ニ東風ノ際ハ最モ甚タシトス而シテ此瓦斯ハ航海者ニ非常ナル困難ヲ與フルノミナラス半島ノ動植物ニ少カラサル影響ヲ及ホシ其發育增殖ヲ害スルコト夥タシ

五、人口幷ニ人種　半島ノ人口ハ總計八千五百人ニシテ其面積約十一萬方哩アリ即チ面積ノ上ヨリ言フトキハ本邦ノ約八分大不列顛島又ハ伊太利半島ト相等シク全露國ノ七十九分ノ一ニ相當スル大面積ヲ有スルニ拘ラス其住民ハ斯ノ如ク寡少ニシテ十二方哩中ニ僅々一人ノ住民ヲ有スル割合ナリ更ニ年々人口增殖ノ度ヲ見ルニ漸ク三百人ノ外ニ出テス人種ニハ露人即チ「スラボニツク」人種ノ少數ヲ除ケハ蒙古

種ノ「カムチヤダール」(Kamtchatdal)「コリヤキ」(Koryaks)「トウングース」(Tungus)ナリトス就中最モ多キヲ占ムルハ「カムチヤダール」ニシテ「コリヤキ」(五百人)「トウングース」種族ハ「ブロデヤーチエ、ラムート」(Brodjatie Jamyts)ト稱シ一定ノ住居ヲ有セサル遊牧人種ニシテ冬期狩獵ノ爲メ北ギヲキンスク郡ヨリ堪察加半島ニ移住ニ來ルモノナリ

半島ノ露國ノ版圖ニ歸シテヨリ今日ニ至ル迄二百餘年其間人種モ次第ニ混淆シ土民モ漸ク露化シ從テ今ハ幾ント純血ノ種族ヲ見ルヲ得サルニ至レリ此等人種ノ半島ニ配置セル狀況ハ地圖ニ詳ニセリ住民ハ人種ノ如何ニ拘ラス總テ希臘教ヲ信シ他邦人ヨリ之ヲ觀レハ迷信ノ域ニ近シトイフヘシ

六、住民生活ノ情況　住民ノ生活ハ夏季河海ニ於テ鮭鱒ヲ漁獲シ之ヲ乾燥シテ「ユーコラ」(Ioeora)トシ鹹製シテ貯藏シ冬季ノ食料ニ供ス冬季ハ貂、熊、狐、水獺等ノ狩獵ニ從事ス獵獲物ノ一部ハ貢稅「ヤサーク」(Jicaru)トシテ政廳ニ納付シ一部ハペトロパウルースク府、テギール、ミリコフ又ハ下部堪察加等ノ重ナル部落ニ運送シテ麥粉、食鹽、茶、砂糖、火藥、鉛及其他ノ日用品ト交換スルヲ例トス近年毛皮類ノ騰貴セルト半島各地ニ對スル交通機關ノ稍〻開發セルトニ由リ大ニ毛皮ノ需用ヲ增加シ他方ニ於テ住時一部商人ノ特占ニ歸シタリシ雜貨商モ近來其數ヲ增加セルト共ニ彼等日用品ノ價格ヲ低廉ナラシメ之ニ加フルニ昨三十三年ニハ本邦出漁船ノ麥粉、食鹽ヲ輸出スルモノ增加シタル爲メ住民ノ生活上ニ大影響ヲ及ホシ稍〻餘裕ヲ生スルニ至ラシメタリ住民ハ一般ニ性質朴訥ニシテ忍耐力ニ富ミ勇悍ノ氣象アリ酒精ヲ嗜ムコト最モ甚タシク一椀ノ酒ハ彼ヲシテ無上ノ快樂ヲ感セシムルモノヽ如シ衣服ハ重ニ毛皮類ニテ造リ我國ノ胴袖股引ト洋服トヲ折衷シタル如キモノヲ着シ足ニハ海豹皮ノ深靴ヲ穿チ殊ニ一般婦人ノ特徵トシテ布片ヲ被レリ家屋ハ角材ヲ積重ネテ之ヲ造リ外觀美ナラサルモ堅牢ニシテ防寒ノ用意最モ至レリ

七、動植物ノ狀況　半島ニ產スル動物ノ重ナルモノハ貂、熊、狐、水獺、野羊、狼「ロサヤフ」(Poccomaxus)「ロフダキー」(Poxjanii)「トロノスタフ」(Topnocrans)等ノ野獸牛、馬、犬、馴鹿等ノ家畜、海豹、海馬、臘虎等ノ海獸等トス鳥類ニハ鷹、鷲、燕、鵝、鴨等アリ魚類ニハ鮭、鱒、鱈、鰊、鰈等ヲ產ス植物ハ殆ント穀類ヲ產セス唯堪察加河下流ノ低地ニ於テ少量ノ麥ヲ產スルノ蔬菜類ハ葱、蕪菁、玉菜及馬鈴薯等ハ耕作シ得ルモ完全ナル種子ヲ收ムル能ハサルヲ以テ年々種子ヲ輸入シ播種スルヲ例トス果實類ニ至リテハ只苺類又ハ松實等ノ生熟ヲ見ルノミ蓋シ半島ノ開拓上最モ必要ナル農作ノ現況右ノ如クナルヲ以テ將來穀物蔬菜ノ培養又ハ種類ノ適否ヲ考ヘ試作改良ノ方法ヲ講シ種子ヲ得ルノ途ヲ究ムルニアラスンハ殖民地トシテ多キヲ望ムヲ得サルヘシ樹木ニハ楊類、樺類、落葉松及偏松(五葉松)等アリ堪察加河ポリシヤヤ河等ノ水源ヲ涵養スル森林ニハ建築用材モ亦少カラスト雖モ冬季風雪ノ害ヲ受ケ甚タシク挫折セルモノモ亦多シ又燃料ニ供スル樹木モ少カラス草卉類ニハ菖蒲、蓬、蔺、萱、「ニオ」、濱梨、百合等ノ野草アリ殊ニ菖蒲、蓬ノ類ハ至ル處ノ原野ニ繁茂セルヲ見ル又西海岸ニハ「ドングエ」草最モ多シ其他海岸ニハ昆布ノ發生多シト雖

モ之ヲ採集スルモノアルヲ聞カス

八、行政組織　郡ノ行政廳ハペトロパウルースク府ニ在リ郡一切ノ行政事務ヲ掌理シ兼テ陸軍ノ事務ヲ掌リ郡長官ハ武官ニシテ我國ノ佐官ニ相當スト云フ現今ノ長官ハベー、アー、ヲスルコフ(H. A. Omypro-ne)ナル人ニシテ此ノ外一名副長官ト三名ノ屬吏アリ廳務ハ極メテ簡單ニシテ見ルニ足ルモノナク記錄文書ノ如キモ散亂粗略ニシテ要ヲ求ムルニ由ナク現ニ小官等出張中政廳ニ至リ種々調査スル所アランヿセシモ何等ノ材料ヲ有セス僅ニ前年中ノ統計ノ一部ヲ發見シタルノミ郡ヲ分チテ五十六クノ部落ト爲シ各部落ニ「スタロシタ」(Старосты)即チ村長ノ如キモノアリテ其ノ部落ニ於クル事務ヲ統轄シ郡行政廳トノ聯絡ヲ維持ス郡長官ハ毎年二月郡醫一名屬吏一名哥薩克兵一名ヲ引率シテ管内ヲ巡視シ併セテ貢稅徵收ヲ爲ス其通路ハペトロパウルースク府ヲ出テ堪察加河沿岸ノ諸部落ヲ經ウキンスク灣沿岸ノ部落ヲ巡回シテオホツク海岸ヲ南行シテボリシヤヤ河ヨリペトロパウルースク府ニ歸着スルハ三月ナリト云フ斯ク巡回期ヲ冬期トスル所以ハ半島ノ地勢前記ノ如ク至ル所山嶺相連リ道路不備ナルヲ以テ夏季ノ旅行ハ艱難少ウラサルモ冬季ハ山原川野積雪ヲ以テ推ハレ殊ニ河上ノ如キモ凍結シテ犬橇ヲ御スルニ至便ナレハナリ

第二章　港灣ノ狀況

總論

堪察加半島ノ東海岸ハ概シテ斷巖屹立シ屈曲多クレトモ西海岸ハ砂濱相連ルコトハ前記ノ如シ從テ半島中港灣トシテ目スヘキモノハ東海岸ニ多ク西海岸ニ少シ今港灣中本邦出漁船又ハ露國郵船等ノ出入スルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

一、ペトロパウルースク港(Петропавловскій Порть)
二、カラガ港(Karapara)
三、河口堪察加港(Усть-Камчатскъ)
四、モロゾウオヱ(Морозовое)

以上東海岸

五、チギール(Тигиль)

以上西海岸

東海岸ニ於クル港灣ハ海水深クシテ船舶ノ碇繫ニ便ナル所甚タ多シ是前ニモ言ヘル如ク半島ノ火山作用ニ由リ地層ノ幾分ヲ隆起セシメ斷層明カニ露出シ又一部ハ之カ爲ニ陷落シテ大水ヲ湛ヘ而シテ斷層ノ海水ニ洗ハル、ヤ歌カナル部分先ツ去リ堅岩ノミ巍然トシテ海岸ニ屹立スルニ至レルモノナランオゼルノヱ(Озерное)ストルボウォヱ(Столбовое)カムチヤトク(Камчатскъ)クロノチキ(Кроноцкій)シブンスキー(Шипунскій)ロバトカ(Лопатка)ノ諸岬附近ノ如キ殊ニ著シキモノナリ惟フニ是レ太平洋ノ怒濤幾千年

間ノ水蝕力ニ由リタルモノニシテアワチヤ灣ノ如キハ一度短艇ヲ艤シテ灣内百哩ノ沿岸ヲ探見セハ斷層面ノ歷々トシテ露出シ或ハ斷巖ノ崩落シタル狀ヲ見ル殊ニペトロパウルースク港ノ西方ヲ限レルニコリスク半島ノ南部ハ斷層斜ニ海水ニ侵入シ一見シテ其陷落セシモノナルヲ知レリ前記東海岸諸港ノ内船舶出入ノ最モ多キハペトロパウルースク港ニシテ河口堪察加港ハ露郵定期船及露國「コチク」會社船等ノ往復スルアレトモカラガ港又ハモロゾウヲエ港ノ如キハ船舶ノ出入極メテ稀ナリ又西海岸ノチギール港モ露國船ノ出入河口堪察加港ト相等シ

ペトロパウルースク港并ニペトロパウルースク府

ペトロパウルースク港ハ半島ノ東南部アワチヤ灣内ニ在ルダルニー岬トウエヌス岬トヲ以テアワチヤ灣ヲ擁シ灣内ニペトロパウルースク タリヤ及テコフヤノ三泊地ヲ造レリアワチヤ灣ハ深ク陸地ニ侵入シテ灣口ハ南南東ニ向ヒ約五浬ノ海峽ヲ通シテ外海ニ通ス灣口ヨリ灣底ニ至ル距離十二浬ニシテ灣ノ幅員十浬ナリ水深六尋乃至十五尋海底泥砂ニシテ錨掻ニ宜シク四周峻嶺ヲ以テ圍ミ半島唯一ノ良灣ナリ灣口ノ左岸ダルニー岬ニハ燈臺アリ水面上二百五十六呎光達二十三浬ニ及フト云フ

アワチヤ灣ハ水面積甚タ廣ク而シテ世人ノ稱スルペトロパウルースク港ハ灣内ノ一區劃タリ同港ハ灣ノ東部ニ在リ長サ十町餘ノニコリスク半島其ノ西方ヲ限リ港内ニハ東南岸ヨリ西北ニ向ヒテ突出シタル長三町餘ノ砂嘴ヲ以テ港ヲ内外ニ分劃スニコリスク半島ト砂嘴端トハ其間僅ニ三十間ニ過キス内港ハ廣袤約參萬坪水深三尋乃至七尋アリ千噸内外ノ船舶數艘ヲ容ルヽニ足ル然ルニペトロパウルースク府ノ住民ハ港内ニ塵埃ヲ投棄シ且ツ沿岸ニ護岸ノ工事ヲ施ササルヲ以テ土地崩壞シテ港内ヲ埋塡シ漸次東北岸ヨリ水深ヲ減シ干朝ノ際ハ著シキ干潟ヲ見ルニ至レリ外港ハニコリスク半島ノ南端シヤコッフ岬ヨリ東南ニ引ケル一線内ニシテ水深六尋乃至十二尋アリ然レトモ岬ノ東南部ニ三角形ノ淺洲アリテ其水域ヲ減シ洲ノ東端ニ浮標ヲ設ケテ船舶ハ浮標ト燈臺トノ間ヲ通過スヘキヲ示セリニコリスク半島ノ東岸ハ水頗ル深クシテ入港船舶ハ殆ント陸地ニ接シテ投錨シ僅ニ數間ノ棧板ヲ架シテ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ヘシアワチヤ灣内ニ於ケル外ノ二船地ノ一タルラコフヤ船地ハ灣ノ東部ペトロパウルースク港ノ南方ニ在リ岬角灣ノ西南部ヲ限リ海底亦甚タ深ク四尋乃至十五尋ニシテ幅半浬長サ二浬アリ灣口ニテコフヤ淺瀨アリト雖モ水道各三鏈ノ幅員ヲ有スルヲ以テ僅少ノ注意ヲ加フレハ入港スルコト容易ナリ次ニ他ノ一タルタリヤ泊地ハアワチヤ灣ノ西南部ニ在リペトロパウルースク港ノ西南西十浬ヲ隔ツタリヤ半島ハ東方ヨリ突出シ幅一浬半長サ五浬水深五尋乃至十三尋ヲ有シ如何ナル大船巨船モ安全ニ碇繫シ得ヘシ露國「コチク」命社ノ鑵詰製造所ハ此處ニ在リ

ペトロパウルースク府ハペトロパウルースク港ノ東北岸ニ在リ(東經百五十八度四十八分北緯五十三度)半島第一ノ要地ニシテ郡ノ行政廳(Ispnik)此處ニ在リ郡務ヲ處辨ス露國「コチク」會社ノ支店アリ麥粉、茶、砂糖及其ノ他ノ日用品ヲ販賣シ併セテ對岸「タリヤ」鑵詰製造業ヲ營メリ此外露人ノ雜貨店一戸、清人

ノ雜貨店一戸、酒類專賣店二戸アリ尙露人ノ雜貨店ハ又酒類ノ專賣ヲモ爲セリ以上ノ雜貨商及酒商ハ府民及地方住民等ノ需要ニ應シ物品ヲ供給シ其代金トシテ各獵期ニ於テ貂、熊、狐、水獺等ノ毛皮類ヲ收得ス蓋シ商人カ物品ヲ販賣シテ代金ヲ毛皮類ヲ以テ受取ルトキハ其利ヲ倍加スルヲ以テナリ若シ現今ヲ以テ毛皮ヲ購買センニハ高價ヲ稱ヘ其利ヲ減スルナリ

府ニハ中央ニ教會堂アリ府中第一ノ建築物タリ又小學校一アリ府及附近地方ノ兒童ヲ教育シ此ノ外病院一ケ所アリタルモ今ハ閉鎖セリ紀元千八百五十四年英佛聯合艦隊カ當府ヲ攻擊シ露軍ノ勝ニ歸シタリシ紀念碑(Cnana)ハ港內砂嘴ノ中央ニ建テラレ戰死者ノ墓所ハ府ノ北部高地ニ在リ佛人ラペルーザカ北洋探險ノ途次當府ニテ斃レ航海上ニ少カラサル功績ヲ遺セリ今ハニコリスク半島ノ中部ニ彼カ遺逝ノ碑ヲ建テ之ヲ不朽ヲ傳フ丁抹人ベーリングカ白令海峽探險者トシテ世ニ其ノ名ヲ知ラルル彼ノ碑ハ教會堂左側ニ建ラル

其他ノ港灣

カラガ港ハ半島ノ東北岸ウキンスク(Yemhcek)灣ノ北部カラギンスク島ノロザニクベステー泊地ノ對面ニ在リ本港ハアヲチヤ灣ニ亞ク良港ニシテ稍〻圓形ヲナス水深四尋乃至八尋アリ然レトモ附近人煙稀少ニシテ生產物多カラス唯ウキスク灣西南ノ內地ニハ豊富ナル硫黃礦アリトイフモ收支相伴ハサルヲ以テ採集スルニ由ナシ故ニ本港ハ夏季少數ノ漁業船及警備艦ノ船影ヲ認ムルコトアルノミ

河口堪察加港ハ堪察加河ノ河口ヨリ上方四十露里ノ處ニアリ河口淺クシテ帆船ノ外大船ヲ容ルルヲ得ストヽ雖モ鮭鱒漁場トシテ本邦帆船ノ出漁スルアリ殊ニ堪察加河沿岸ニ供給スル貨物ノ輸入港トナリ生產物ヲ集收シ輸出スルノ港トナリ惟フニ本港ハ堪察加河ノ河口ニ近ク將來半島ノ拓殖事業益〻進步スルニ至ラハ自ラ交通ノ頻繁ヲ加ヘ重要ナル地區トナルヘキ乎モロゾウォエ港ハスブンスキー岬ノ東北部ニ在リ灣內水甚タ深ク且ツ曲入シ船舶避難ノ好泊地ニシテ寄港船モ少カラス殊ニ露國「コチク」會社ノコマンドル島航路及郵船航路タルアナドイルハ河口堪察加線中ニ於クル避難港タリトス

チギール港ハ半島ノ西北岸チギール河ノ河口ニ在リ是亦海水淺クシテ錨地ト稱スルニ足ラサレトモ河上四十露里ニチギール一部落アリ鮭鱒ノ漁場トシテ佳良ニシテ北部唯一ノ港ナレハ貨物ノ輸出入モ少カラス東淸郵船及警備艦ノ出入スル所ナリ然レトモ本邦出漁船ハ未タ此邊ニ至ラサルカ如シ之ヲ要スルニ西海岸ハ港灣トシテ價値アルモノナク出漁船ノ如キモ滿潮ニ乘シテ河口ニ入航スルカ否ラサレハ沖合ニ碇繫スルノ外ナキナリ

第三章　河川ノ狀況

總論

堪察加半島ノ地勢ハ中央ニ二大山脈アリ南ヨリ北ニ蜿蜒シテ分水嶺ヲ劃シ之ヨリ西方ハ原野多ク東部ハ丘陵多シ故ニ半島ノ諸川流ハ其數多シト雖モ流域ノ長大ナルモノナシ唯堪察加河ハ堪察加山脈ト東部山

脈トノ中間ヲ流レ此両山脈ヨリ流下スル諸川流ヲ合シテ白令海ニ注クモノナレハ其流域最長シ西岸一帯ハ曠野相連リ海岸ヨリ三四十哩ノ間ハ殆ント山ヲ見ス堪察加山脈ヨリ出ツル諸川ハ悉ク此原野ノ間ヲ流レオホツク海ニ注入ス今東西二部ニ分チテ重ナル諸川ノ特質ヲ述フレハ東岸ウキンスク灣ニ注クカラガドランキンスク パンカラ ルサコッフ カリウル カンガラット及ウカ等ノ諸川ハ各六七十露里ノ小川ニシテ尤モ源ヲ北部中央山脈ニ發シテ東流ス此地方ハ概ヲ平坦ニシテ灌木ノ繁茂スル所ナリ河中ニハ魚族ノ産出夥タシト云フ現ニ露人カクチンナル者帆船「カメラン」號(四十一噸)ニテ一昨三十二年來カラガ川ニ出漁シ許多ノ漁獲アリ又全地方ニハ貂、熊、海豹及馴鹿等ノ獵獲モ少ナカラスヲゼルノエ海灣ニ注入スルヲゼルノエ川ハ長サ約百露里両岸絶壁ニシテ人跡ヲ止メス唯全川下流ニヲゼルノエ部落アルノミチヤグミ川ハクロノツキ岬ノ北方ニ注入スル小川ニシテ昨三十三年中本邦漁業家蛯子某カ露人ヂブコフト結托シテ出漁セシ所ナルカ全川ハクロノツキ火山山麓ノ温泉之ニ注入スルヨリ鮭鱒ノ溯上セサル所ニシテ全人等之ヲ知ラス爲ニ失敗ニ歸シタリト言フクロノツキ海灣ニハクロノツキ川ヲユバノワ川アリクロノツキ川ハ東部山脈中ノ深谷クロノツキ湖ヲ發シヲユバノワ川ハ東部山脈ノ南部ヨリ發シヲユバノワ火山ノ北麓ヲ流レ上流急ナリト雖モ下流ハ稍〻緩ニシテ河口ニ於テ水數派ニ分ル露國「コチク」會社ノ漁場アリ鮭鱒族ノ産出豊富ナリト云フアワチヤ灣ニ注流スル二川ハ一ヲアワチヤ川ト云ヒ他ヲパラトウンカ川ト云フアワチヤ川ハ源ヲ中央、東部両山脈トノ分岐點ヨリ發シ南流シテアワチヤ灣ノ北部ニ注クアワチヤスタールイヂストログ及コレヤキノ三部落此沿岸ニアリ又パラトウンカ川ハ南方ビリウチ山ヨリ發シ下流數多ノ沼澤ヲ合セアワチヤ灣ノ西北部ニ注ク以上二川ハ年々土砂ヲ排出シ灣内ノ水深ヲ減セリ又其ノ沿岸地方ハ到ル處白楊、柳、樺等ノ樹木鬱茂シ野獸ノ棲息地タルノミナラス魚族ノ溯上亦頗ル多シ以上ハ東岸諸川ノ概況ナルカ更ニ西岸ノ重ナル川流ニ付南部ヨリ順ヲ追フテ記載スレハカムベリナヤ川ハ半島ノ南端ロパトカ岬ヲ距ル約二十五哩ノ山間溪水ヨリ出ツル小川ナルモ魚族ノ棲息地トシテ其名ヲ知ラレ殊ニ河口ニ於テ鰈ノ産出夥シキヨリ此ノ名アリト云フ(露語Kamisa.ka(カムベラ)ハ鰈ノコト)之ヲ距ル北方ニ十浬ニヲセルナヤ川アリ源ヲコセレワウトサイウト二火山ノ溪間ニ在ルクリリスキー湖ヨリ發シ長サ三十露里水深ク河口ノ沿岸岩石凹凸中峽溢ニシテ碇泊ニ適セスト雖モ魚族ノ豊富ナルヲ以テ其名ヲ知ラル、之ヨリ北十五浬ニヤウヰナノ小流アリ亦魚族多シ殊ニ此地方ハ熊、海豹等ノ産出最モ多ク半島中第一ト稱セラルコルイギナ オバラノ両川ハヤウヰナヲ距二十浬又魚類ニ富ム之ヨリ北方五十浬ニポリシヤヤ川アリ西岸第一ノ大流ニシテ堪察加河ニ次ク之ヨリ以北有名ナル諸川總テ十八アリ何レモ魚族獸類ニ富ム今之ヲ列舉スレハウトカ キフチク ヲムチク コロノスキー ウオロフスキー コルバコーワ クルトゴローワ ヲブルコウヰナ イチヤ ソポーチナ モロシエチナ ベロゴロワヤ ハリウゾワ チギールワヤムボルカ カフタナ バラン レースナ是ナリ以上諸川ハ何レモ源ヲ中央堪察加山脈ヨリ發シ流域古露里内外アリ就中チギールレースナノ二川ハ百五十露里以上ニ及ヘリ此等諸川ノ通過スル地方ハ沼澤濕地多ク

夏季雜草繁茂シテ人馬ヲ沒シ道路杜塞シテ行旅頗ル困難ナリ爲ニ夏季ノ旅行ハ重ニ海岸ノ砂地ヲ旅行ス樹木ハ海岸ヨリ上流ニ溯ルコト十餘里以上ニアラサレハ發生セス故ニ本邦出漁者西岸ノ渡航スルモノハ小屋掛其他ニ要スル樹木ヲ得ルニハ土民ヲ使役シ上流沿岸ノ樹木ヲ伐採シ川ヲ下シテ之ニ充ツト云フ

以上列擧シタル諸川流ハ二三ヲ除クノ外何レモ小流ニシテ稱スルニ足ラスト雖モ鮭鱒魚族ノ如キ河流ニ溯リテ產卵スルモノナルヲ以テ河口附近ハ自ラ好箇ノ漁場トナリ本邦出漁者ノ渡航スル者モ概ヲ河口附近ヲ撰ヒテ網ヲ投スルモノナレハ漁場トシテノ眞價ハ甚タ多大ナリト云フヘシ矧レヤ半島八千五百ノ住人ハ概ヲ河川ノ沿岸ニ部落ヲ形作リ河川ニ依リテ水利ヲ得河川ニ依リテ彼等必要ノ食料タル魚族ヲ獲ルモノニシテ時ニ融雪汎溢シテ家財人畜ヲ流失スル等ノ害ナキニアラスト雖モ河川ト住民トハ實ニ離ルヘカラサルノ關係ヲ有ス河川ハ實ニ彼等生活ノ自然樂土ヲ供スルモノト云フモ不可ナシ去レハ半島五十六部落ノ中十七部落二千ノ人口ハ堪察加河ノ流域ニ散在シ其他ハ以上列記シタル諸川流ノ沿岸ニ散在ス

堪察加河（P.KOMTATEN）

堪察加河及ボリシヤヤ河ノ二大流ハ其流域最モ廣ク半島ノ交通上ニモ一大關係ヲ有スルモノナレハ更ニ其詳細ヲ記述スルノ要アリト信ス抑堪察加河ハ源ヲ中央山脈ト東部山脈トノ分岐點タルベンニツケン火山ニ發シ北流シテプシチノ部落附近ニ至リ両岸ノ支流ヲ合セ上部堪察加部落ニ至ルノ間右方東部山脈ノ六小支流ヲ合セ左方中央山脈ヨリ發スルアンドリヤノフカト右方ポウヂチユノ両川相對シテ上部堪察加部落ノ北方ニ注ク而シテアンドリヤノフカ支流ハ今ヨリ四十年前洪水ノ爲メ上部堪察加部落ヲ流失セシコトアリ又此部落ハ紀元千七百三十一年堪察加ノ土民ノ蜂起シテ露ノ羈絆ヲ脫セントセシトキ哥薩克兵ノ爲メニ擊破セラレ其ノ主唱者メルリン以下ヲ禁錮擊留セラレタル所ナルヲ以テ一般ニ罪惡（露語Tpbur-ur）ト稱スルニ至レリ本川ハ更ニ北流シテミリコフ部落ニ至ルトキハ河中次第ニ廣ク幅員五十「サーセン」深サ二「サーセン」ニ達シ之ヨリキルカニクノ支流ヲ左岸ニ受クマシユラ部落ニ至リテキミテーナノ支流ヲ右岸ニ合セ此邊ハ河身著シク屈曲シ峻巖絶壁相連ルキミテーナ支流ハ源ヲ中央山脈ヨリ發シ蜿蜒岩石ノ間ヲ流ル其沿岸ハ落葉松、銀松等ノ甚タシク繁茂セルヲ見ルキミテトナ支流ノ堪察加河ニ注入スル所ヨリ下流コヂイレフスク部落ニ至ルノ間右岸ニシチヤピノトルペチク等ノ小流ノ注入スル所ヲ見ル此シチヤピノ川ノ沿岸ハ針葉樹ノ發生頗ル良好ニシテ良材ヲ產ス殊ニ本支流ノ源タルクンチェクラ火山ハ此等ノ良材ニ豐富ナルヲ以テ之ヲ伐採シテクロノツキ湖ノ溪流ヲ下シ容易ニ太平洋岸ナルクロノツキ河口ニ達スルヲ得ヘシト又トルペチク支流ハクリウチェフスキー火山ノ南方ナルトルペチク火山ヨリ發シ叢澤ノ間ヲ流レ流勢急ナラス沿岸落葉松ノ樹林多シ此地附近ハ稀ニ彼ノ西比亞北部水源ニ發見セラルル「マンモス」（巨象）ノ遺骨ヲ發見スルコトアリト云フ堪察加河本流ノ此地方ニ至ル頃ハ幅百「サーセン」深サ、七「アルシン」ヲ有シ流勢稍急ナリ之ヨリ下リテ左方コヂイレフスク及ヒクレストワノ二支流ヲ合シ河中最廣ノ點ニ達ス之ヨリ下流ハ二派ニ分レ或ハ合シテ河幅ヲ減シ流勢モ緩漫トナルクレストワ支流ハ中央山

脈ヨリ發源シ南流シテ本川ニ合ス此處ヨリ本流ハ針路ヲ一變シテ東ニ向ヒクリウチ部落ニ於テ北岸ニエロフカ支流ヲ受ク仝支流ハチギール川ノ上流ナルセダンカ川ト源ヲ同フシ相反スル方向ヲ有スエロフカ川ノ沿岸地方ハ到ル處白楊、赤楊、樺等ノ繁茂セルアリ其流域百五十露里下流ニ於テ廣二百「サーゼン」深サ七「サーゼン」餘アリ然レトモエロフカ川ノ一小支流ハ温泉ノ混入スルアリテ魚類ノ溯上セサルモノアリトイフクリウチ部落ヨリ河口ニ至ル迄テ其間百二十露里ハピヂヤ ラトウカノ諸支流ヲ合セネルピーチ湖ヲ經テ終ニ堪察加海灣ニ注ク

堪察加河ノ河口ハ土砂堆積シ屢〻其形狀深淺ヲ異ニス是レ河港ニ免カルヘカラサル普通ノ狀態ナリ河口ノ深サ七呎アリ故ニ河口ヲ通過センニハ必ス滿潮ノ時ヲ計リテ入航セサルヲ得ス普通船舶ハ能ク下部堪察加部落ニ航行スルコトヲ得ヘシ殊ニ小蒸滊船及其他ノ小形船ハ河口ヨリ三百露里ノ河上ニ航行シ得ヘシ毎年六月一日ヨリ六日頃迄ニ增水ヲ始メ七月二十日頃ニ至リテ減水ノ時期ナルヲ以テ此時期ニ於テハ河内ノ航行最モ便利ナリトス

聞ク處ニ依レハ往昔堪察加河ノ河口ハ現今ノ塲所ヨリ南方二十露里ニアリシト今尙其ノ舊河口ハ湖形ヲ存シアルカ元堪察加河ノ泥土ヲ排出スルコト夥シキカ爲河口ニ砂洲ヲ築キ之ニ加フルニ太平洋ノ波濤漂砂ヲ打付ケテ河口ヲ塞キタルヨリ終ニ現今ノ塲所ニ轉セルナリト云フ又本川ノ上流水源地ハ勿論流域仝部概シテ植物ノ發生良好ナルノミナラス魚類ノ棲息夥シク就中「チェウヰチヤ」「キシュチ」ト稱スル風味佳良ノ鮭ヲ產ス又本川ノ下流クリウチ部落地方ノ住民ハ多ク牧牛シテ肉及乳汁ヲ得其一部ハ河口堪察加部落ニ下シテ入出船舶ニ供給スト云フ

ポリシヤヤ河(P. Большая)

オホツク海ニ注入スル川流中堪察加河ト關係ヲ同フシ半島交通上ニ一大利益ヲ供スルモノヲポリシヤヤ河トス本川ハ堪察加河ト水源ヲ同フシ一ハ北流シ一ハ南流シテ本川トナル二水源ノ相距ル極メテ僅少ニシテ一火山ヲ以テ南北袂ヲ分ツ而シテポリシヤヤ河ノ水源ハ尙一水源アリ東方ヨリ來ルモノ是ナリ前者ハブイストラヤ川ト稱シ后者ヲナチカ川ト稱シビリウチ火山ヨリ發シ両岸平地少ク流勢少シク急ナリト雖モペトロパウルースク府ニ通スル唯一交通機關タリ又ブイストラヤ川ハ堪察加河諸部落ニ通スル交路ナリトス以上二支流ハ河口ヨリ約四十露里ノ所ニ於テ相合シ其ノ交叉點ニ於テポリシエレチク(Большерѣчье)部落ヲ作レリ本川ノ流域二百五十露里ニシテ上流沿岸ハ山嶺相連ルモ下流ハ曠野叢澤相連リ河身ニハ處々泥砂ノ堆積ヲ見ル又水源地方ニ至ル處樺、落葉松、柳、楊等ノ樹木繁茂セルモ斧斤曾テ入ラサルヲ以テ將來半島ノ拓殖上必要ナル良材ヲ供スルノ地方トナルヘシ

ポリシユレチク部落ヨリ河口ニ至ルノ間深サ平均二「サーゼン」乃至三「サーゼン」ニシテ普通帆船碇泊ニ妨ナシト雖モ河口ハ廣サ五十「サーゼン」深サ僅ニ一「サーゼン」餘ニ過キス故ニ入港船舶ハ滿潮ニ乘シテ河口ヲ通過スルヲ常トス(滿潮ハ平水而以上六呎ニ至ル)本川ハ鮭鱒漁塲トシテ有望ナルノミナラス本邦

出漁船ノ河中ニ碇繋中人ヲペトロパウルースク府ニ派シテ漁業手續ヲ爲スノ便アルヲ以テ入港船舶少カラス開ク處ニ依レハ本川ノ河口ハ昔時灣形ヲ作リ船舶ノ碇繋ニ適當ナル錨地ナリシカ年々土砂排出ノ爲メニ終ニ埋塡シテ之ヲ沒スルニ至レリト云フ今尚チエフカ灣ナル地名ノ土民ノ口碑ニ存スルヨリ見レハ此事實ノアリタルモノナラン

第四章　陸地交通ノ概況

半島ノ陸地交通ハペトロパウルースク府ヲ中心トシテ各地ニ通スルモノニシテ交通ノ多クハ冬季ニ於テ爲サルヽト雖モ夏季モ亦馬背ヲ利用シテ通スルコトヲ得ヘシ今此通路ヲ見ルニ大体上次ノ二線ニ分カルルカ如シ即チ第一堪察加線、第二オホツク線是ナリ

第一、堪察加線　ペトロパウルースク府ヨリアワチヤニ出テアワチヤ川ヲ溯リスタールイヽヲストログコレヤキニ至リ川ヲ離レガナールイヨリ堪察加河ノ上流プシチノニ出テ堅氷滑ニ河身ヲ沿フテ犬橇ヲ驅ル一日ノ行程約百五十露里緩ナルトキハ百露里ニ出テスト雖モ其迅速ナルモノニ至リテハ能ク二百露里ニ及フト云フプシチノヨリシエロムイ上部堪察加ヲ經テミリコフニ至ル全部落ハ戶數五十人口三百五十内地ノ名邑ニシテ附近土民ノ冬季集合地ナリ之ヨリキルカニク マシユラ シチヤピノ トルペチク コヲイレフスク ウシキ クレストムイヲ經テクリウチニ到ルクリウチ部落ハペトロパウロースク府ニ次ク良邑ニシテ南方ニハクリウチエフスキー活火山高ク雲表ニ聳ヘ前ニハ堪察加河ノ大流浸々トシテ西ヨリ東ニ過キ北方シエウェリウチ火山ノ西部エロフカ地方ノ曠野ヲ望ム半島狩獵區中最多額ノ產出ヲ占ム又附近樹林良材ニ富メリ仝部落ヨリ下流ニ下部堪察加、河口堪察加ノ二部落ニ至ルヘシ本線ノ延長八百露里ミリコフ部落ヲ其ノ中分點トス今此堪察加線ノ支線ヲ擧クレハ左ノ六支線アリ

第一、ガナールイヨリマルキニ出テブイストラヤ川ヲ下リポリシエレチクニ至ル

第二、上部堪察加ノ左岸支流アンドリヤノフカ川ヲ溯リ中央山脈ヲ横斷シ西岸コルバコーワヲブルコヰナ川ヲ下ル

第三、キルガニク川ヲ上リヲブルコヰナニ通ス

第四、マシユラノキミテーナ川ヨリ西岸イチヤニ通ス

第五、クレストムイ川ヲ溯リテギールニ通ス

第六、クリウチヨリエロフカ川ヲ溯リハルチノエロフカ部落ヲ經セダンカ川ノ上流ニ出テチギールニ通ス

第二、オホツク線　ペトロパウロースク府ヲ發シアワチヤ スタールイヽヲストログヲ經ポリシヤヤ河ノ上流ナチカニ出テアバチヤヨリポリシエレチク部落ニ下ル仝部落ヨリ南下シテゴルイギナ及ヤヲノニ至ルモノト北進シテウトカ キフチク ネムチク コロフスキー ウオロアスキー クルトゴローワヲブルコヰナ イチヤ ソボーチヤ モロシエチナ ペロゴロソ ハリウゾフカ カフラン ウトホールカ及ナバナ

ノ諸邑ヲ過キチギールニ至リ堪察加線ノ北向支線ト相合スチギール部落ハ半島オホツク海沿岸第一ノ名邑ニシテ河亦深ク東清鐵道滊船ノ定期寄港地タリ毛皮類ノ產類亦多シチギールヨリオホツク海沿岸ニ從フテギヲギンスク府オホツク府ウーズスク府等ニ通ス又北向シテアナドイル府ニ通スル道路アリ是半島海路ノ開ケサリシ際露國遠征隊ノ屢々行通セシ所ナリ

以上ハペトロパウロースク府ト各地方トノ間ニ於ケル陸路交通ノ概況ナリ

堪察加半島ノ交通道路ハ一般ニ人工ヲ加ヘタルニアラス自然ノ儘人馬ノ往來スルカ爲メ自ラ小徑ヲ築キタルモノニシテ河ニ橋渠ナク馬背ニ依リテ渡ルカ或ハ獨木舟ノ便ニ依ラサルヲ得ス又通路ノ傍ニ處々小屋ノ設置アリテ冬季旅行ノ際ハ其内ニ入リテ風雲酷寒ヲ避ケ宿泊スルモ夏季ハ天幕ヲ用ユルヲ常トス又到ル處飲食物ヲ供スル旅店ナキハ勿論ナルヲ以テ旅行ニハ必ス食麵麭食鹽等及寢具トシテ毛皮ヲ携帶セサルヲ得ス冬季ノ旅行ハ犬橇ニ倚ルカ爲迅速ニシテ輕便ナリト雖モ夏季ハ馬背ニ跨ルカ若シクハ小舟ニ依ルヲ以テ其ノ困難名狀スヘカラス殊ニ夏季ハ蚊蚋ノ襲擊甚タシク土民ハ敢テ之ヲ意トセサルカ如クナルモ他邦ヨリ到ル者ハ殆ト其ノ苦痛ニ堪ヘス細網若クハ布片ヲ被リ手足ヲ包ミテ之ヲ防クモ尙其間隙ヨリ侵入シ五月蠅キコト言語ニ絶ス又半島ノ北部及西部ノ一地方ニ於テハ住民稀粗交通一層不便ニシテ屢〻麥粉食鹽等ノ欠亡ヲ告クルコトアリ最近部落ニ至リテ之ヲ求メントスルモ容易ノ業ニアラサルヲ以テ鹹味ナキ乾魚ヲ食セサルヲ得サルコトアリ幸ニ昨三十三年本邦出漁船ノ沓至スルヤ許多ノ食鹽ヲ齎ラシ西海岸ニ於テ南カムバラナヤヨリ北イチヤニ至ル各漁場ニ配賣セル爲メニ土人ノ手中ニ落チタルモノモ少ナカラサリシヲ以テ彼等土民ハ爭フテ之ヲ貯蓄シ今后數年間缺亡ヲ免カルルヲ悅ヘリト云フ試ニ彼等土民カ食鹽ヲ最大必要品トシテ紀重スルノ一列ヲ擧クレハ本邦人某ペトロパウロースク府ヲ出發シポリシエレチクニ至ル途次ナチカ部落ノ一土民ノ家ニ投シ三留ヲ與ヘテ鹹魚ヲ購セシニ僅ニ鮭ノ腹肉三片ヲ出シタルヲ見テ其高價ナルニ驚キ之ヲ詰リシカ主婦之ニ答ヘテ食鹽高價ナルカ爲メ之ヨリ以上ヲ呈スルヲ得ス若シ生魚ニテモ可ナラハ數ノ多少ヲ論セス需ニ應スヘシト言ヘリト以テ食鹽ノ彼等住民ニ取リテ如何ニ必要ナルカヲ察スルニ足ル

第五章　堪察加ノ地理的沿革

始メ露國人ノ堪察加半島ヲ發見シテ之ヲ占領シタルハウラデミール、アトラソフナル者ナリアトラソフノ父クツスルハ一貧農ナリシカウラル又ハウラデミールノ地ヲ越テ東部西比利亞ニ轉任シアトラソフノ代ニ於テヤクーチク府ニ於テ五十名ノ哥薩克兵ヲ領スルニ至レリアトラソフハアナドイル地方ニ於ケル土民ヨリ貢稅ヲ徵收スル命ヲ受ケ紀元千六百九十五年ノ春ヤクーチク府ヨリ十三名ノ哥薩克ヲ率ヰテ出發シ東部西比利亞ノ不毛ノ水原ヲ通過シ十五週間ノ后即仝年ノ晩夏アナドイルニ達スルヲ得タリ是ヨリ先キアトラソフハ堪察加ノ地貴重ナル毛皮ノ豐富ナルコトヲ聞キシカアナドイルニ着スルニ及ヒテ土人ヨリ半島ノ狀況ヲ聞キ之ヲモ征服シテ名譽及利益ヲ博セントスルノ念ヲ起シ紀元千六百九十六年其從卒

モロヂコナル者ヲシテ哥薩克兵十五名ヲ率ヰ堪察加半島ヲ探險セシメタリモロヂコ進ミテ堪察加河ヲ過キ地方ノ土人ヨリ貢稅ヲ徵收シ歸リテ半島占領ノ容易ナルコトヲ報告セリ

是ニ於テ紀元千六百九十七年ノ春アトラソフハ哥薩克六十名及土人六十名ヲ隨ヘアナドイルヲ出發シ行行コレヤキ種族ノ三部落ヨリ貢稅ヲ徵收セシカカムチヤダール土人ノ抵抗ヲ受ケ之ヲ擊破スルヲ得タリト雖モアトラソフモ亦五人ノ從兵ヲ失ヘリ茲ニアトラソフ第一次ノ戰勝紀念トシテ仝年六月十三日木製ノ大十字架ヲ建テ又半島ノ山脈ハ陸地ヲ東西二部ニ分チ南北ニ連亘セルヲ以テアトラソフ其兵ヲ分チテ一隊ハ自ラ率ヒテオホツク沿岸ヨリ南進シ一隊ハモロヂコヲシテ東側ニ出テ南進セシメタリ然ルニアトラソフハ行進ノ途中其引率スル土人民ノ反ヲ謀ルニ會シ哥薩克兵三名ヲ失シノミナラス十五名ノ負傷者ヲ出シ自ラモ亦負傷セリ是ニ於テ進ンテモロヂコノ兵ニ合シ尙行進ヲ繼續シ到ル處土人ヨリ貢稅ヲ徵シ終ニ半島ノ極南端ロパトカ岬ニ達セリアトラソフ北ニ歸ルニ及ンテ上部堪察加ニ塞ヲ設ケ哥薩克兵六十名ヲシテ之ヲ守備セシメシカ其后コレヤキ種族ノ爲メニ忽チ殺戮セラレタリ

アトラソフハ半島ノ經營上多數ノ兵員ヲ配置スルノ必要ヲ認メ之ヲ建議センカ爲メ紀元千七百年七月アナドイルニ哥薩克兵二十八名ヲ殘シ自ラヤクーチク府ニ到リテ半島ノ狀況ヲ報告シ更ニモスコフ府ニ到リ半島占領ノ顚末及毛皮ノ豐富ナルコトヲ奏上シテ其携帶セル多數ノ毛皮ヲ獻シシカハ大ニ上下ノ歡迎ヲ受ケ西比利亞ノ征服者エルマツクト幷ニ賞セラルルニ至レリ是ニ於テアトラソフ新ニ哥薩克兵百人長ヲ命セラレ軍需品ヲ携ヘテ再ヒ遠征ノ途ニ上リシカ途上商品ヲ奪掠セルノ罪ニ由リヤクーチク府ニ囹圄ノ人トナレリ

始メ紀元千七百年アトラソフノヤクーチク府ニ歸ルヤ總督ハコベレフナル者ヲシテ堪察加ノ長官ト爲スコベレフハ土人ノ爲メニ破壞セラレタル上部堪察加ノ塞ヲ再興シ又新ニポリシエレチクノ塞ヲ建テタリ紀元千七百二年ヲノウヰエフ代リテ半島ノ長官トナリ更ニ下部堪察加ニ塞ヲ設ケ千七百四年コレソフ赴任スルヤ千島諸島ノ遠征ヲ試ミタルモ當時此太平洋岸ニ派遣セラレタル哥薩克兵ハ亂暴狼籍ニシテ尋常長官ノ御シ得ル所ニアラス然ルニ千七百六年ニ至リテ半島ノ土民蜂起シテ悉ク露人ヲ國外ニ放逐シ塞ヲ燒キ殺戮ヲ縱ニセリ

此報ヤクーチク府ノ總督ニ達スルヤ叛徒征服ノ適任者ハ到底御ヲ望ムヘカラス止ムナクアトラソフノ禁ヲ解キ新ニ半島ノ長官ニ任セラル茲ニ孤窓ニ沈吟スルコト五ケ年ナリ紀元千七百七年アトラソフ半島ニ入リ上下堪察加ノ塞ヲ再興シアクチヤ灣附近ノ叛徒ヲ征服シ半島漸ク靜穩ニ歸スルヲ得タレトモアトラソフ常ニ哥薩克兵ヲ遇スルコト殿酷ナリシカ爲メ再ヒ哥薩克兵ノ爲メニ拘禁セラルルニ至レリ紀元千七百七年ニチリコフ繼キテ半島ノ長官ニ任セラレ千七百八年バニンチン千七百九年ニリビン千七百十年ニセクシチヤノフ千七百十一年ニコレソフ相次キテ半島ノ長官トナリシモ慓悍ナル哥薩克兵ヲ統治スルコト能ハス彼等自ラ指揮者ヲ內定シテ暴舉ヲ企ツルコトアリ是ヨリ先千七百十年アトラソフハ禁ヲ脫シテ

下部堪察加ノ塞ヲ領シチリコフ長官任充チテ未タ去ラサルニ新任長官リツピンノ來ルアリテ半島三長官アルノ奇態ヲ演シ已ニシテリツピンハ旅行中ニチリコフハ歸任ノ途次ニアトラソフハ下部堪察加ニ於テ何モ哥薩克兵ノ爲メニ暗殺セラレ哥薩克兵自ラアンチフオル又ハコサイレフスキー等ヲ長官トシ土人ヨリ貢稅ヲ徵收シタリ然ルニ哥薩克兵ノ土人ヨリ貢稅ヲ徵收スルハ頗ル歷制暴虐ヲ極メタルカ爲メ大ニ土人ノ嫌忌スル處トナリ千七百十一年土民カムチヤダール峰起シテ露人ヲ攻圍シ激烈ナル爭鬪ノ後土民ヲ破ルコトヲ得タルモ更ニポリシヤヤ河附近ニ於テ第二ノ爭鬪起リ是亦激戰ノ後漸ク土民ヲ擊破セリ當時此爭鬪ノ慘烈ナリシコトハポリシヤヤ河ハ土民ノ死骸ヲ以テ覆ハルヽニ至レリト云フヲ見テモ知ルヘシ紀元千七百十二年二月アンチフオル兵二十五名ヲ率ヒ貢稅徵收ノ爲メアクチヤ灣ニ至リシカ土民亦蜂起シテ又之ヲ鏖殺センコトヲ謀レリ蓋シ當時露人ノ土民ニ對スル歷制ハ極メテ慘憺酷烈ナリシモノヽ如シ一例ヲ擧クレハアトラソフカ拘禁セラレ其有スル毛皮ヲ奪掠セラルヽヤ其ノ數量貂皮千二百三十五枚赤狐皮四百枚蒼色狐皮十四枚臘虎皮七十五枚ノ多キニ至レリ而シテ此等毛皮ハアトラソフカ僅々數月ノ間ニ土人ヨリ徵收セシ所ナリト云フヲ見レハ土人收斂ノ如何ニ甚シカリシヤヲ知ルニ足ルヘシ

之ヲ要スルニ哥薩克ト土人トノ爭鬪ハ紛々トシテ絕ユル時ナク詳悉スルモ益ナキヲ以テ之ヲ略スト雖モクヤーチク府ヨリ半島ニ對スル交通機關ノ開クルト共ニ漸次靜謐ニ歸シタルモノトス紀元千七百八年ニハペンジナ川ニ千七百十四年ニハキントルスクニ塞ヲ設クタルヨリ堪察加トアナドイル間ノ交通開クタルモ此頃ニアリテハヤクーチク府ヨリ堪察加ニ到ルニハ尙ホ西比利亞ノ東北曠野ヲ跋涉セサルヘカラサルモノナリシカ仝年ニ於テ海路オホツクヨリ堪察加ニ航スルノ提路ヲ執ルニ至レリ即チヤクーチク府ヨリ半島ニ到ルニハレナ アルダン マヤ ユードムノ諸川ヲ經テスタノウオイ山ヲ越ヘウラク川ヲ下リオホツク塞ニ出テ此處ヨリ船舶ニ乘シテ堪察加ニ直航スルニ至リタレハ爲メニ半島ノ統御上大ニ面目ヲ改ムルニ至レリ

紀元千八百四十九年露國將軍ムラビヨフ惟ヘラク我海軍他日東方ニ事アルニ當リテ今ヨリ太平洋ニ根據地タルヘキ一良港ヲ有セサルヘカラスト五月十五日イルクーチク府ヲ發シ堪察加半島ヲ巡視シ七月二十五日ペトロパウロースク港ニ到ル當時仝將軍アクチヤ灣ノ地勢ヲ見テ嘆賞シテ言ヘラクシドニー リオ、シヤネーロノ良港モ尙三舍ヲ避クヘシト即チ此地ヲ以テ海軍根據地ト決シ當時ノ根據地タリシオホツク府ヨリペトロパウロースク港ニ移シヌ千八百五十三年ニ至リ露土戰爭ノ破裂スルヤ其ノ餘波ハ遠ク太平洋ノ彼岸タル堪察加ニ波及シ翌千八百五十四年八月十八日英佛聯合艦隊ハブレスデントヲ、フオルト外五艦砲二百三十六門ヲ以テペトロパウロースク要港ヲ攻擊ス當時露國軍艦二艘砲六十五門ヲ以テ港內ニ碇泊シ要塞ニハ六砲臺三十九門ヲ以テ守備セシカ連戰八日ニ亘リ聯合軍利アラスシテ去ル此戰ハ幸ニ露軍ノ勝ニ歸シタリシカ翌年更ニ大擧シテ攻擊スヘシトノ內報聖彼得堡ヨリイルクーチク府ナルムラビヨフ將軍ニ達スルヤ將軍ハペトロパウロースク要塞ノ兵器兵員ヲ以テ到底再度ノ防守ニ堪フヘカラス且

之ヲ補充セントスルモ行通不便ニシテ運送ノ途ナキヲ察シ急使ヲ發シテペトロパウロースク要塞ヲ引上グ尼古來斯克ニ集合スヘキヲ命セリ千八百五十五年三月五日ペトロパウロースク港碇泊ノ露艦此命ニ依リ堅氷ヲ挫キ險ヲ冒シテ韃靼海峽ニ向フ此時英艦二艘ハアバチヤ灣外ニ遊弋警戒シアリシカ此日濃霧咫尺ヲ辨セス露艦ヲシテ此好機會ニ乘スルヲ得セシメヌ後日聯合艦隊ノ灣內ニ入ルヤ露艦已ニ去リタル後ナリシト云フ

ペトロパウロースクハムラピヲフ將軍ヲ以テ建テラレ東海ノ重鎭タリシコト六年事物ノ改マリシモノアリシカ聯合軍ノ攻擊ヲ蒙リ要塞ノ尼古來斯克ニ移サレシヨリ以後又昔日ノ寒村トナリ時ニ米國捕鯨船ノ來リテ泊スルヲ認ムルノミナリシカ爾後露國ノ東方經營ハ着々其効ヲ奏シ之ニ加フルニ白令海々獸保護ノ必要ヨリ警備艦ヲ回航スル等アリ半島ノ形勢モ徐々トシテ開發セラレツヽアリ近年本邦出漁船ノ此地ニ航スルモノ俄ニ增加シ益々其ノ面目ヲ改ムルニ至レリ

第二編　生産物ノ概況

第一章　總論

半島生産物ノ大要ニ付キテハ前編ニ於テ略ホ記述シタル如ク植物ニ於テハ杜松、落葉松、白楊、樺、偃松等ノ木材ノ外少量ノ麥ヲ産シ動物ニハ貂、熊、狐、狼、水獺、野羊、馴鹿等ノ野獸臘虎、海豹等ノ海獸ヲ産シ魚類ニハ鮭、鱒、鱈及鰊等頗ル豐富ナリ今半島ニ於テ最有望ナル左ノ四業ニ就テ述フヘシ

一　狩獵業
一　漁業
一　採鑛業
一　製造業

右四産業ノ外前已ニ記セル木材類ノ如キモ今後交通機關ノ發達ト共ニ堪察加河及ポリシヤヤ河ノ水域ニ繁茂セル樹林ハ其用途亦望ナキニアラス

現時半島ノ生産物ノ狀況ヲ見ルニ狩獵漁業ノ二種ニ限ラレタルモノヽ如ク其額モ狩獵ニ於テ約二十一万留漁業ニ於テ三十二万留其他農産物ニテ約五万留アリ此外本邦漁業船ノ漁獲高二十万留ヲ加フレハ七十八万留トナル而シテ前記三十二万留ノ漁獲品ハ凡テ國內消費ニ供セラレ又狩獵ニ依リテ得ル所ノ大半ハ

土民需用品ノ交換資料ニ供セラル此外僅少ナル農産物ノ全部モ皆内國消費ノ一部トナルモノトス

狩獵及漁業ノ有望ナルハ論ヲ俟タサルモ是レ半島ノ住民八千五百ノ依リテ以テ生活ヲ維持スル必要素ナレハ能ク年々増殖ヲ示セルモノト減少ヲ現ハセルモノアルニ注意シテ其増減ノ由リテ來ル所ヲ察シ相當施爲ヲ加フルノ要ナシト云フヘカラス狩獵ノ如キ相當保護ノ許ニ捕獲セサレハ其産出年々遞減スルハ明カナリ漁業ノ如キモ亦然リ本邦ノ熟練ナル漁夫ヲシテ之ニ從事セシメハ到底今日ノ如キ魚類ノ繁殖ヲ見ル能ハサルヘシ故ニ行政官ハ茲ニ見ル所アルカ狩獵ニ對シテハ禁獵區、捕獲法及期間ノ制限アリ魚類ニ對シテハ漁區、漁法、漁夫等ノ制限ヲ設ケテ保護ノ方針ヲ採ルニ至レリ

第二章　狩獵

臘虎　此種族ハ北太平洋ノ西北岸ナル我金華山沖合ヨリ千島列島及堪察加ノ東岸ニ沿フテ遊泳シ獵船ノ銃手ノ丸ニ倒レコマンドールスク、アレウート列島ノ陽岩ニ晝寢ヲ貪リテ捕手ノ棍棒ニ觸レ命ヲ失フモノ幾千頭ナルヲ知ラズ

昔時半島ノ東南岸ニハ夥シク繁殖シアリシニ獵船ノ跋扈甚タシキヨリ大ニ其數ヲ減シ殊ニ半島南部強震ノ後全ク其跡ヲ絶チコマンドルスク、アレウート列島ニ居ヲ移シタルカ時日ヲ經過スルニ從ヒ再ヒ半島ノ南部トゥリー、セストルイ及クロノッキ岬ノ近傍ニ出現スルニ至レリ紀元千八百七十五年樺太千島交換條約ノ成ルヤ後二年ニ露國「アレウート」人種八十三人ヲ千島ヨリ堪察加ノアパチャ灣ニ移シ臘虎狩獵ノ許可ヲ與ヘタリシニ爾后年々二三十頭ヲ捕獲セリ然ルニ密獵船ハ益々激シク公然海獸ヲ捕獲シテ憚ラス爲メニ警備巡洋ヲ兼テ軍艦ヲ派遣セリ紀元一千八百九十年ニハアパチャ灣附近ニ於テ此種族ノ棲息スルモノハ益々減少シトゥリー、セストルイ附近ノミトナリタレハ行政廳ハ獵夫(哥薩克兵中)六名ヲトゥリー、セストルイ地方ニ送リ獵法ヲ制限シ即チ網ヲ用ヰ銃ヲ用ヰサラシメ數ヲ七頭トシ且雄獸ノミヲ捕フルヲ許シ内六頭ハ各自ノ所得トシ一頭ハ官ニ納付スヘキ旨ヲ命シ充分ナル保護ヲ與ヘタリ爾後哥薩兵二名獵夫五名ヲ守備隊トシ十四頭ヲ限リトシ毎年ペトロパウロースク府ヨリ行政長官ノ撰拔ニ依リ交代シテ其任ニ當ラシム而シテ捕獲高ノ二分一ハ官有ニ二分ノ一ハ守備員ノ所得トナシタレハ其成績頗ル良好ニシテ今ハ棲息スルモノ多ク今后益々増殖シテ其數ノ減セサル度ニ達セハコマンドルスク或ハチエレニ島ノ如ク相當條件ノ許ニ私人ニ捕獲許可ヲ與フヘシト言フ

臘虎毛皮ハ倫敦市上ニテ百磅乃至千二三百磅ヲ値シ實ニ世上ニ於ケル本品ノ聲價ハ年ト共ニ昇ルアルモ降ルコトナシ本年九月ペトロパウロースク府ニ於テ行政廳カ競賣ニ付シタル臘虎皮十五枚ハ一枚最高九百九十九留最低四百五十留ニシテ其内十四枚ハロバトカ岬ニ於ケル臘虎保護員ノ獵獲ニ係リ一頭ハ我カ海獸獵帆船懐遠丸(六五噸)ノ獵獲物ナリシ而シテ本年中九月ニ至ル迄海獸獵船ノ捕拿セラレシモノ我カ帆船二隻アリ一ハ八月一日愛洋丸(五九噸)カコマンドルスク島附近ニテ露國警備艦「ヤクート」號ノ爲メニ捕ハレ一ハ九月四日懐遠丸カ全島附近ニテ露國「コーチク」會社汽船「コーチク」號ノ爲メニ捕ハレ何レ

モコマンドスク郡行政廳所在地ナルニコリスク府ニ押送セラル船舶及獵獲物ハ總テ沒收セラレ二艘ハ今尙ホニコーリスク港ニ露旗ヲ揭ケテ碇泊ス而シテ其獵獲物ハ愛洋丸ノ分膃肭臍皮四枚及懷遠丸ノ分膃虎皮壹枚膃肭臍皮二百五十枚其他獵具一切アリシカ孰レモペトロパウロースク府ニテ競賣ニ付セラレタリ又船員四十八名ハ露國東淸鐵道會社汽船定期郵船「スンガリー」號ニテニコーリスク府ヨリ浦汐斯德法院ニ護送セラレタリト言フ是レ果シテ露國領海內ニテ海獵セシモノナルヤ否ニ就テハ后日ヲ待テ判定セラルヘシ昨三十三年中モ前記事件ト同樣ノ事アリ帆船淸正丸露國警備艦ニ捕拿セラレ浦汐斯篤港ニ護送セラレシカ審判ノ結果無罪ノ宣告ヲ受ケ船員ノミ歸國スルヲ得タリシカ其后露政府ニ對シテ損害倍償ヲ起訴スヘシト言フ

海豹　半島ノ東西沿岸到ル處海豹ノ棲息セサルナク其數ノ饒多ナルハ一度彼土ニ渡航セシ人ノ能ク記憶スル所ナリ此種族ハ每年八月頃ヨリ陸地近ク現出シ翌年四月ニ至リテ海岸ヲ離レ去ル斯ク豐富ナル海豹ハ唯土民ノ爲メニ銃殺セラルヽコトアルノミニテ遠洋獵船ノ此種ノ動物ヲ覬サル所以ハ一ハ膃虎、膃肭臍等ノ毛皮ノ如ク高貴ナラサル動物ニ空シク緊要ナル時日及彈藥ヲ費スヲ恐レ一ハ九月以降彼地寒風凜烈ニシテ航海ニ困難ナルニ由ル現今海豹皮ノ需用ハ未タ開ケス爲メニ價格モ一枚二、三留ノ低價ナリ隨テ多數ヲ捕獲セサルヨリ彼等ノ繁殖ヲ助クルモノナリ逐年增殖スルノ結果トナリシナリ

貂　紀元千六百九十七年露ノウラデミール、アトラソフカ始メテ半島ヲ占領シタル當時ヨリ半島ハ貴重ナル毛皮即チ貂皮ノ豐富ヲ以テ廣ク世ニ知ラレ遠ク本國ニ廻送セラレタリシカ現時ハ多ク露國「コーチク」會社雜貨店ノ手ニ買收シ米國ヲ經由シテ英京倫敦ニ輸送シ一部ハ淸商ノ手ニテ浦港經由上海香港ニ廻漕セラル其產額年々二三千枚ノ多キニ達シ價格モ一枚十留乃至四十留ニシテ面積一尺平方ニ足ラス實ニ膃虎皮ニ次ク良皮ナリ西比利亞東部ハ到ル處貂ノ好產地ナルモ殊ニ半島ノ產ハ最モ良好ナリ其色黑褐色ノモノ多ク稀ニハ黑色ノモノアリ細毛密生シ毛長四十乃至六十「ミリメートル」アリ

熊　年產額約千百頭ニシテ第三位ヲ占ム熊皮ハ半島ノ山岳谿谷ニ獵ラレ過半ハ輸出セラレテ浦港、上海及オデサ港等ニ送ラルヽモ一部ハ土民ノ防寒具トシテ使用セラル價格ハ一枚五留乃至三十留ナリ現今半島ニ棲息スル熊ハ其幾種ナルヤ知リ得ヘカラサルモ毛色ヲ以テ區別スレハ黑、白、茶褐ノ三種アリ黑色ノモノ我國ニ產スルモノト略相類似シ茶褐ノモノハ我北海道及千島諸島ニ產スルモノヨリ稍ヽ大ニシテ毛長ク且ツ密生シ白色ノモノハ毛皮トシテ前者ヨリ優ルコト數等ナレトモ其數甚タ少ク且彼北氷洋產ノ如ク純白ナラス少シク黃褐色ヲ帶フルモノハ如シ又半島ニ產スル熊ハ北海道產等ニ比スレハ性溫和ニシテ人類ニ害ヲ及ホス等ノコト少ナシ途中偶々邂逅スルコトアルモ彼自ラ避クルヲ常トセリ

狐　半島ニ棲息スル狐ハ四種アリ即チ赤色狐、十字狐、黑鳶色狐及「スウォドゥシュカ」狐ノ四ナリ赤色狐ハ最モ多ク從テ價格モ低廉ニシテ一枚六、七留ニ過キス我國產ヨリ体稍〻大ナリ十字狐ハ極メテ稀ニシテ赤色狐ノ頭部ヨリ尾部ニ黑色ノ一線及両肩ヨリ之ニ交叉スル一黑色線アルヲ以テ名ツク毛皮トシテ外觀甚タ美ナリ價格モ每一枚二十留內外ナルモ稀ニハ五十留ニ賣買セラル黑鳶色狐ハ十字狐ヨリモ稀ニシテ容易ニ獲ヘカラス千八百九十七、八年頃僅ニ十頭ノ獵獲アリシト云フ價格ハ千八百五十年代ニハ每一枚九留千八百九十一年ニハ俄然騰貴シテ六十留ニ九十三年ニハ八十留九十六年ニハ百五十留ノ價格ヲ示スニ至レリ此種族中ノ逸品ナリ「スウォドゥシュカ」狐ハ暗黑ニシテ頸部淡黑色ナリ一種特異ノ毛色ヲ有シ頗ル奇品ナリ每一枚十留乃至三十留ヲ値ヒシ捕獲數亦少シ又コマンドル島ヨリ蒼色狐（露語「ゴルーブイ、ピーセツ」）白色狐班狐等ノ變種ノ狐類ヲペトロパウロースク港ニ集散セラルヽモ一部商人ノ手中ニ存シ他ニ輸送セラルヽカ故ニ其詳細ヲ知リ難シ

水獺　此種族ノ重ナル棲息地ハ半島西岸川澤多キ原野即チポリシヤヤ河以北ノ沼地ニシテ年額ノ約七八割ヲ占メ堪察加河沿岸ノ產ハ僅ニ一二割ニ過キス

馴鹿　山野ニ遊食シテ健脚ヲ練リ入リテハ能ク人ニ從フコト熱帶ナル亞刺比亞ノ野馬ノ如ク土民ノ爲メニ使用セラレ黃昏北方ノ氷原ニ消カナル聲ヲ弄シ客ヲ率ヰテ能ク千里ヲ馳セ乳汁ヲ供シテ能ク土人ヲ養フ北部地方ニハ我牛馬ノ類ナシト雖モ馴鹿ノ効用決シテ之ニ劣ラス實ニ北地ニ於ケル交通機關ノ原動力ナリ然レトモ半島中之ヲ飼育スル所ハ北部ノウキシスク灣及レスナヤ　カフタナ地方ノ一部ニ限ラレ他ハ皮肉ヲ得ル爲メ狩獲スルニ過キス全部ヲ通シテ一年平均六百餘頭ヲ捕獲ス殊ニ近年大ニ其數ヲ減セ[illegible]

馴鹿ノ捕獲數最モ多キハ堪察加河沿岸ノトルペチクコズイレフスク及クリユト等ト南方ポリシヤヤ河ノ近傍ナリトス此二方面ノ分ハ飼育セスシテ肉及皮ヲ得ルヲ目的トシ冬期率橇用トスルモノ少シ皮ハ他ノ毛皮ノ如ク衣服及其他ノ飾ニ使用スルヲ得ス重ニ騎具トシテ我國ノ敢滿團ノ如キ用途ニ充ツ然レトモ北境ニ近キ部落及遊牧異種民ハ之ヲ飼育シテ冬期ニ橇ヲ率カシメ或ハ乳汁ヲ搾リテ飲料ニ供ス其價南部ニ於テハ每一頭二十留北部ニ於テハ牛馬ノ如ク使用シ得ルモノニシテ五六十留ナリ[illegible]

野羊及狼　野羊ハ前記各種ノ獸ノ如ク毛皮獸ニアラスシテ肉ヲ得ルノミ然レトモ毛稍〻長キヲ以テ馴鹿皮ノ如ク寢具ニ供セラル每一頭十留內外ナリ郡ニ於ケル獵獲數年平均二百六十四頭ニシテ重ニ堪察加河沿岸及南部ノ高原ニ獲ラル思フニ馴鹿及野羊ノ如キ野獸ハ群棲ヲ好ミ獵民ノ此群ニ邂逅スルヤ一時ニ能ク十數頭ヲ捕獲ス又狼ノ如キ木邦產ノモノト全ク異ナリ体大ニ毛長クシテ色灰白色ヲ帶ヒ價格ハ一枚七留乃至十留ナリ全郡ヲ通シテ二十頭內外ヲ捕獲ス昨千九百年ニハ八十六頭ノ多キニ達シタリキ用途ハ防寒用並ニ敷物用等ニ使用セラル[illegible]

前記各種ノ狩獵ハ過去幾百千年間土民ノ生業ニ屬シ毛皮ハ綴リテ衣服ニ肉ハ燒キテ食卓ニ供シ以テ寒ヲ防キ飢ヲ凌キシコトヲ追想セハ此業ノ今日ニ至レルハ又偶然ニアラサルヲ知ルニ足ル半島ハ北ニ偏シ寒威弱シトイフヘカラス千里人煙稀薄ニシテ野獸ハ恣ニ山野ヲ跋渉シ時ニ蒙古種ノ土民ノ爲メニ獵セラルノ外ハ絶テ減殺セラルヽコトナク繁殖增加スルノミナリシカ千六百九十七年ニ至リ露國半島ヲ占領スルニ至リ土民ヨリ貢租ヲ徵スルニ當リテ毛皮ヲ以テ之ニ充テ爾后水陸ノ交通年ヲ追フテ加フルニ及ヒ毛皮ノ需用ハ年ト共ニ發達シ他方ニ於テ半島住民生活程度ノ上進ト共ニ其需用品ノ交換資料トシテ獸類ノ捕獲數ヲ增加シタリ初ハ毛皮ノ價格モ極メテ低廉ニ之ニ反シテ日用品ノ價格ハ非常ニ高價ヲ唱ヘ一部商人ノ壟斷ニ委シタリシモ斯ノ如キ現象ハ交通機關ノ發達セル今日到底永續スヘキニアラサレハ漸次反對ノ現象ヲ呈シ毛皮ハ愈〻高値ニ雜品ハ益〻低落スルニ至レリ

半島產毛皮ノ美麗强韌ナル他產ノ遠ク及フ處ニアラス毛色光澤アリテ細ク密生シ一見シテ頁好ナルヲ知ル去レハ半島產ノ毛皮ハ各地市場ニ於テ常ニ優位ヲ占ム蓋シ寒帶地方ニ棲息スル獸類ハ嚴寒ニ堪ヘンカ爲メ自ラ細密ナル毛ヲ發生スルモ溫帶地方ニ棲息スルモノハ粗毛ヲ以テ寒氣ヲ防クニ足ルヲ以テ其產住頁ナラス故ニ半島產毛皮ハ遠ク富豪ノ需用ニ供セラレ倫敦市場ニ名聲ヲ博スルヤ久シ若シ本邦人ニシテ地利ヲ利用シテ此業ニ着目シ半島住民ノ需用如何ヲ考ヘ彼等ノ嗜好品ヲ輸シテ毛皮ニ換ヘ之ヲ精製シテ歐米ノ市場ニ供給センニハ極メテ有利ナル業ナルヘシ

第三章　漁業

半島漁業ノ一般

半島ノ山野米麥菜蔬ヲ產セス古來狩獵漁業ノ收獲物ヲ以テ衣食ニ充テ飢餓ヲ防キ來リシカ彼我交通ノ開始ト共ニ其一部ハ麥粉食鹽等ノ供給ヲ受ケ始メテ彼等ノ卓上ニ麵麭ノ現ハルヽヲ認メヌ然レトモ現今尙交通不便ノ僻地ハ魚類ヲ常食トシ一ニ之レニ依テ生活スルモノ亦少シトセス殊ニ飼犬ノ食ニ充ツルノ必要アリ夏期全力ヲ盡シテ河海ニ魚ヲ求メ之ヲ貯藏スルコト我國農夫ノ米麥ヲ貯藏スルニ均シ然ラハ漁業方法ノ如キ積年熟練ノ結果大ニ見ルヘキモノアルヲ想像セシムルモ今親シク彼土ヲ踏ミテ彼等ノ漁法ヲ實見センニハ其幼稚ニシテ一笑ヲ洩ラスヘク甚タ滑稽的ナルヲ見ルヘシ即チ河水ヲ堰キテ魚ノ溯上ヲ留メ鉤ヲ以テ之ヲ引上ク或ハ海灣ニ於テハ囊ナキ小網ヲ投シテ魚類ノ經路ヲ要シテ之ヲ捕フ此ノ如ク見識ニ類スル漁法ニシテ亦能ク收獲高ノ多キハ驚クニ堪ヘタリ是レ魚類ノ豐富ニシテ其繁殖ヲ害セス其多額ヲ得ルモ尙餘裕ヲ存スル所以ナリ我奥羽北洲等ノ如キ魚類ノ多ク棲息セシ時代アリシハ能ク人ノ知ル所ノミナラス漁法ノ如キ昔時ハ頗ル簡易ナリシモ其漁法ノ發達ト共ニ收獲ヲ減セリ故ニ漁法ノ改良進步ハ一方ニ魚類ノ減盡ヲ意味スルモノニシテ之カ反對推定ハ正ニ漁法ノ不進此簡易ハ增殖ヲ思ハシム半島漁業ノ沿革ハ今ヨリ五六年前ニテハ殆ント見ルヘキ變動ナク舊習ヲ墨守シ土民ノミ漁獲シタリシカコマンドルスキー列島ニ於テ膃虎腦肭臍等狩獵ノ爲メ起リシ露國「コチク」會社ハ其獵獲高モ昔年豐富ノ比ニア

ラス行政廳ヘノ納付金モ前會社ノ如ク低廉ナラサリシ爲メ亦一方ニハ「トロバウロースク」郡ニ於ケル生産物ヲ一手ニ專有スルノ計畫ヲ建テ毛皮等ヲ第一トシ紀元千八百九十五年ヨリ始メテ半島ノ漁業ニ着手シ九十五年「ペトロパウロースク」港ヨリ臘虎臘鼠臘皮等ヲ載セ桑港ニ出帆セシ露帆「ベトリング」(総百二十五噸 登百二十噸)號ハ九十六年五月函館港ニ入リ我漁夫若干ヲ乘込マシメテ堪察加ニ向ヒヌ是レ半島漁業場裏ニ一新面ヲ開キシ始ナリ仝年九月仝船ニテ鮭鱒七千尾ヲ函館港ニ輸入セリ是レ堪察加產魚類ノ本邦市場ニ現ハレシ始メナリ爾后連年我漁船大洋丸攝陽丸愛國丸等ヲ雇入レ我漁夫ヲ使用シ此業ヲ繼續シ九十九年ニ至ル迄此會社獨專ノ姿ナリシカ此頃ヨリ薩哈嗹島及ニコライスク等ニ於ケル漁場ハ漁業家競爭ノ巷トナリ加之該方面ニ對スル行政廳ノ方針ハ年一年ニ漁業者ニ對シ不利ニ傾クルヨリ本邦漁業家ハ露人ト協同シテ半島ニ漁場ヲ借受ケ出漁スル者アルニ至リ九十九年ニハ始メテ觀陽長榮ノ二帆船半島西岸ニ至リ昨千九百年即チ三十三年中ニハ五十餘艘ノ漁帆船半島ニ出漁シテ漁業ニ從事シ約一千萬斤ノ漁獲ヲ得テ函館横濱等ニ輸入シタリ

半島ハ最モ魚族ノ繁殖ニ適シ魚類ノ產卵期ニ際シテ魚ノ河流ヲ溯上スルニ當リテ甚シク群集シテ小舟ヲ遣ルヘカラス網ヲ投シテ之ヲ引上クル容易ナラサルコトアリ然レトモ半島ハ前々ニ述ヘタル如ク火山甚タ多ク且ツ溫泉モ少ナカラサルニヨリ此等ノ熱湯河水ニ混流シテ爲メニ魚族ノ溯上セサル處アリ即チ「チャヅマ」及堪察加河支流「エコフカ」川等ノ如キ是ナリ尤モ溫泉ノ注入スル河川ニ在リテモ其流域大ナルトキハ其影響ナキモノヽ如ク一例ヲ擧クレハ西岸「オゼルナヤ」川ノ如キ上流「クリリスキー」湖ハ火山ヲ以テ圍繞セラレ西岸又火山ノ餘脈アリ「ポリシヤヤ」河ノ南部上流「ナチカ」川ハ有名ナル「ナチカ」溫泉ノ注入ヲ受ケ魚類ノ上昇ヲ見サルモ下流ニ至ルニ從ヒ兩岸ノ支流ヲ受ケ殆ント其影響ナク西岸第一ノ魚類產地トシテ知ラル半島魚類ノ鮭鱒ヲ第一トシ鰊鰈鱈等之レニ次ク住民ハ鰊鰈等ヲ漁セス鮭鱒漁獲ヲ以テ唯一ノ目的トス故ニ茲ニハ此二類ニ就テ述フヘシ

本邦ニ於ケル鮭トイヒ鱒トイフ唯二種ニ限ラルヽモノナルモ半島ニ於テハ之ヲ「チャウイガ」「セムガ」「ウイヅナガチュ」「アザパチュ」「アラパチュ」「デーカヤハクラッスナヤ」「キジュチュ」「チャウィチャ」「ハイコ」「ガルブーシャ」「クソチャ」等地方ニヨリ河川ニ依リ數種ニ分類シ其漁期等各差アリ然レトモ之ヲ同類相集メ「チャウィチャ」「ハイコ」「ガルブーシヤ」「キヂュチュ」ノ四種トシ「チャウィチャ」屬ハ(我千島擇捉島等ニ產スル「鱒ノスケ」ニ類ス)春期(即チ五月頃)半島沿岸ニ來集シ河水ニ溯ル体量百「フント」乃至三四百「フント」ニシテ脂肪ニ富ミ肥大ナリ半島ニ於テハ魚類ノ王ト稱スヘキカ價格ニ至リテ高貴ニ二ハ二留ニ値シ堪察加河ニ產スルヲ最良トス半島ニ於テ斯ク珍重セラルヽモ之ヲ鹹積ニシ本邦ニ輸入スルトキハ其品質ヲ損シ本邦人ノ口ニ適セサルニ至ルトイフモ之カ製法ヲ改良シタランニハ强チ不良ナルニアラサルヘシ「ハイコ」屬ハ通常ノ鮭ニシテ「チャウィカ」「セムガ」等之ニ屬シ第一期ハ体稍ヽ小ニシテ五月下旬ヨリ來集スルモノト第二期ハ体稍ヽ大ニシテ七月下旬ヨリ來集スルモノトノ二アリ(夏鮭秋鮭ノ二)共ニ本邦ヲ

輸入セラルモノ、大部分ヲ占メ聲價モ露亞三地方中優位ヲ占ム「ガルブーシャ」屬ハ本邦ノ鱒ト同シク体小ニシテ七月上旬來集シ冬期ニ至ルマテ去ラス其收獲モ「ハイコ」屬ニ匹敵ス本邦人ハ「ハイコ」屬ヲ漁スルニ勉メ止ムヲ得サル場合ニアラサレハ鱒漁ヲナス者少シ本年ノ如キ海產業假規則施行ノ爲メ使用漁夫ノ露人タラサルヘカラサルヨリ哥港或ハ浦港等ニ漁夫ノ募集ニ少ナカラサル日數ヲ費セシ爲メ少シク時期ヲ失シタル嫌アリ尙ホ西岸一帶七八月中ハ海上平穩ナラサリシニ降雨ヲ加ヘ沼澤汚水ノ溢レテ河水ニ混シ流下シタル等ノ事實アリテ夏期鮭類ノ來集ヲ妨クラレ止ムナク鱒漁ヲナシテ歸航スルニ至レリ

左ニ本邦漁業家ノ露國漁夫使用ニ付苦心セシ有樣及漁業從事ノ概況ヲ記セン

(一)ブリチル派　前年已ニブリチルト協同一致シ堪島ニ於ケル漁業ニ從事シアリシ齋藤派ハ本年ヨリ我漁夫ヲ使用スヘカラサルヲ以テ双方協議ノ上前年迄齋藤ノ義務タリシ漁夫供給ヲブリネルノ義務トシ露人ヲ雇入ルヽニ決シ浦港ニ於テ之レカ雇入ヲ爲シタリシカ此派ノ出漁船ハ六帆船約九百噸一滊船五百四十一噸ニシテ帆船ハ東洋漁業株式會社ノ所有船ヲ用ヒ滊船ハブリチル所有ナル「プログレス」號ヲ用ヒ右六帆船ハ函館港ニ來集シテ漁業準備ヲ整ヘ六月上旬渡航ノ途ニ上リ仕向漁場ハコルバコワ、ウォロフスカヤノ二ケ場トシ各三艘ニ分レ着場シ又「プログレス」號ハ漁夫七十餘名ヲ積載シ六月七日浦港ヲ出テ小樽港ニ寄港シテ石炭及食料雜品ヲ積込ミ六月十五日ペトロパウルースク港ニ入リ茶砂糖等ヲ陸揚シブリチルノ雇人ブーチキン漁業ノ諸手續ヲ了シ(本年漁場借主中ブーチキントアルモノ即チブリネル派ニ屬ス)コルバコワ及ウォロフスカヤノ漁場ニ漁業諸兒狀ヲ交付シ積載貨物ハチギール、ギタカホホシク、アイアン等ニ廻港ノ上浦港ニ歸レリ

此派ノ出漁ハ其手續ノ敏捷ナリシ爲メ本期中漁獲高モ他ニ比シ稍〻多鮭約二千二百石鱒五千百餘石計約七千三百石ノ收獲アリタリ

(二)ブーコフ派　ニハ本邦鹹業家五ヶ所合田、福本、竹内、村本、米濱等ニシテ漁夫ハ各自薩哈嗹島ヨリ雇入レシカ夫レカ爲メニ少ナカラサル時日ヲ費シタルノミナラス充分ナル漁夫ヲ得ル能ハスシテ出漁セリ右ノ内米濱ノ如キハ露人ヲ雇入ルニ多數ノ時日ヲ要シ且ツ雇使ノ煩雜ヲ免レサルヲ慮リ魚類買集ノ方法ヲ採リ河口堪察加ニ向ヒタリシニ連年該地ニ出漁シタル露國「コチク」會社ノ漁業ハ本年中止シ姿トナリシ爲メ此大河ノ河口ニ唯一帆船縱横ニ魚類ヲ買收スルヲ得諸種ノ面倒ナル手數ヲ要セス鹹魚ヲ滿載シテ歸航セリ是レ加越丸(二百二噸)ノ良結果ヲ得タル手段ナリキ其他ノ四人ハ、イトデーチカ、オバラキブチク、ジルトゴロフ及ブリュムキナノ五漁場ニ十三艘ノ帆船千五百三十四噸ヲ以テ漁獲シ鮭約四千石鱒五千七百石ヲ獲タルモ帆船一艘ハ遭難破壞セリ

(三)クリペーニン派　ハ新派ニシテ明治三十一年ヨリ露國「コチク」會社ニ邦語通辨トシテ雇ハレ半島各地ノ間ニ往來シ能ク彼地ノ事情ニ通セル赤星ナル者本年ヨリ通辨ヲ辭シ半島ノ漁業ニ着手セリクルペーニンハペトロパウルースク府ノ近村ナルセレグラスコノ哥薩克ニシテ昨冬中函館ニ病氣保養ノ爲メ滯

在中右赤星トノ間ニ漁業契約ヲ爲スニ至リタルモノナリ此派ハ三帆船三百二十四噸ニシテ漁夫ハペトロパウロースク港ニ於テ雇入レ西岸コロフスカヤ河ノ左右両漁場ニ於テ僅カニ鮭百五十石鱒千六百四十石ヲ漁獲セリ此派ノ不結果ハ漁期ヲ失シタルニ外ナラス何トナレハ彼等三船ハ悠々ペトロパウロースク港ニ入リ漁業手續及雇漁夫ノ積込ヲ終ヘ占守幌莚ノ二島ヲ廻航シ漁場ニ到リタル時ハ已ニ魚類ノ群集期ヲ經過シ漸ク晩集ノ魚類ヲ漁獲セシニ過キサレハナリ

(四)露國「ユチク」會社ハ半島漁業ノ創業者ニシテオホツク及白令海ノ貿易ヲ一手ニ掌握シ頗ル利スル處アリシモ本年度ニ至リ漁業ニ付テハ二噸挽ヲ來シ前年中借用シアリシオバラ外二十ケ所ノ漁場ハ殆シト漁業ノ餘命ヲ繼續スルニ難キヲ愛フルニ至レリ是レ年來本邦漁夫ヲ使用シテ無人ノ沿岸ニ漁獲シタルモノ今ハ海產業假規則ノ漁夫問題勵行ノ結果トシテ終ニ本年ハ鹹魚製造ヲ中止シ「ウラヂヲストク」灣タリヤニ於ケル鑵詰製造業ニ意ヲ注クニ至レリ而シテタリヤ漁場ハ鑵詰製造ノ原料供給所タリシニ本年ハ魚類甚タ少ク現時一部ノ作業ニ對シテモ尚不足ヲ告クル有樣ニテ全會社ノ豫想外ニ出テタリ又其借受ケタル漁場中ウォロフスクヒネムナクヲ露人ベツケルニ讓與セリ全社ハ鹹魚用トシテ本年少シモ漁獲セス本年八月中「ペイカル」號ニテポリシャヤオバラ及オゼルナヤノ三漁場ヨリ鹽鮭十四万六千八百四十八尾及鹽鱒二十三万六千二百二十九尾ヲ本邦ニ輸入セシハ前年中ノ積殘貨物ニシテ本年ノ漁獲物ニアラス今右積殘品ノ件ニ付少シク其詳細ヲ語ラン二同會社ハ前年中ポリシャヤ外二ケ漁場ニ約六十万尾ノ鹹魚ヲ貯蓄セシカ本年七月「ペイカル」號ハペトロパウロースク港ヨリ以上三漁場ノ鹹魚ヲ積載シ本邦ニ航行スベキ豫定ナリシニ漁場ハ貯藏鹹魚ハ何者ニカ多數ヲ持去ラレ剩ヘ運艀用小舟ハ破壞セラレテ砂瀨ニ打揚ケラレタルヲ以テ止ムヲ得ス漁船所屬ノ短艇ヲ以テ運艀ニ代ヘ殘貨ヲ載セテペトロパウロースク港ニ輸送シ之ヲ函館ニ輸入セシ故ニ本年全會社ニ於ケル一噸挽ハ其影響スル所甚大ナリト云ハサルベカラス而シテ前記鹹魚ノ紛失ニ付キテハ或ハ本邦出漁船ノ行爲ナルヤ將又土民ノ所爲ナルヤ尚ホ不明ナルモ約二十三万尾ノ鹹魚ハ其中多少本邦ニ輸入セラレタルヤ形跡アリ

(五)ペトロパウロースク派ニ高橋某等ノ事業ニシテ多年薩哈嗹島ニ於ケル經驗ト全島土民ノ使役ニ慣レタルアレクセイ[illegible]ヲ當業者トシ薩哈嗹島ノ住民六十餘名ヲ漁夫トシ出漁船ヲ哥港ヘ廻航セシメタリ此派ノ出漁者ハ八帆船入百七十八噸ニシテ函館港ヨリポリシャヤ河ニ向ケ直航セシ六帆船ト前記哥港ニ漁夫積取ノ爲メ寄港セシ新八幡及正運ノ二帆船トアリ共ニポリシャヤ河ニ集合シ之ヨリ陸行シテペトロパウロースクニ到リ漁業ノ諸手續ヲ了シウォロフスカヤ・チク・クルトブロツ・ブルムキナノ四ケ漁場ニ各二艘ヲ分配シテ鮭千三百石鱒三千六百四十石計四千九百四十石ノ收獲ヲ得タリ此派ノ不結果ハ一ハ漁期ヲ失セシ一ハ風雨ニ遂ヒタルニ由ル

(六)カシチン[illegible]ハ單獨ノ事業トシテ連年ウキンス灣ノ北部カラガ港ニ航行シ前年中ニハ本邦漁業家ノ之ニ結托セントセシモ大ニリシカ終ニ成功セス本年モ亦然リカシチンハ帆船「カメラン」號(四七噸)ノ船

275116

主且船長トシテカラガ漁場ニ出漁シ鮭一萬六千尾ノ漁獲ヲナセリ而シテ本年度ノ漁場ハカラガ以下五ク所アリ其中ソーポチナヤ及モロシェチヤハ露人スターベルノ分ナリ

(七)スターベル派ハ最モ不成蹟ノ漁獲ナリシ此派ハ帆船八艘八百七十二噸アリ内新報天、得撫ノ二帆船ハ無收獲ニシテ歸航シ正德丸ハ途中難破ノ不幸ニ會シ漁獲總石數ハ鮭八百石鱒千石右計一千八百石ノ少數ニシテ非常ナル損害ヲ蒙リシヤ明カナリ殊ニ此派ノ失敗ハ其ノ準備ノ不整理ニ基ス當初彼等ノ漁夫ヲ雇傭スルニ當リテ之ヲ浦港ノ漁業不知ノ徒ニ求メ之ヲ本邦濱船帝淨丸(八十八噸)ニテ函館ヘ回航シタル上半島ノ漁場ニ航行シ新報天丸ノベトロパウロースク府ニ漁業手續ヲ了シ西岸ナル共同船七艘ニ諸免狀ヲ交付スルニ多クノ日數ヲ費消シ爲メニ大ニ漁期ヲ失シ收獲ノ見込ナキヨリ輸出貨物積載ノ儘歸航ノ途ニ就キタリ

以上ハ半島ニ於ケル漁業ノ概況ナリ即チ本年漁業ニ從事セシ三十九艘ノ帆船ノ收獲ハ總計二萬五千八百石ニシテ其内鮭八千七百二十石鱒一萬七千八十石ニシテ二船ハ難破シ二船ハ得ル所ナクシテ空シク歸航セリ之ヲ要スルニ本年半島ノ漁業ハ不結果ニ了リタルモノトス然レトモ此不結果ハ前記ノ如ノ第一露國カ漁夫ノ制限ヲ勵行シ第二漁期ヲ逸シタルノ二原因ニ歸スルモノニシテ半島ニ於ケル魚族減少ノ結果ニアラサレハ將來若シ漁業準備ヲ善クシ漁期ヲ誤ラサルニ於テ相當ナル收獲ヲ得ンコト疑ヲ容レス本邦出漁者タルモノ此點ニ注意センコト最モ必要ナリ

半島漁業ノ將來

將來ニ於ケル半島ノ漁業ハ今后數年間ハ目下ノ狀況ヲ維持スヘシ由來露政府ニ於テハ本邦人ノ出漁ヲ悅ハサルモノヽ如ク過去ニ於テ已ニ年々規則ノ改正アリ其都度本邦人ノ漁利ヲ減殺シ終ニハ收支相償ハサル度ニ達セシメ終ニハ禁漁ニ等シキ苦痛ヲ與フルハ露國ノ慣用手段ニシテ近年外國漁夫ノ使用ヲ禁シタルカ如キ其適例ナリ

紀元千八百九十九年海產業假規則ノ發布セラルヽヤ先ツ漁業ノ露人優先權問題起リ幸ニ年一年其實施ヲ延期シツヽアルニ漁夫使用ノ制限ハ容易ニ之ヲ解カス去レハ漁業家中黑龍沿道總督ニ請願シ外國漁夫使用特許ヲ得ルノ運動頗ル盛ナルモ其効ヲ奏セス半島ニ於テハ露國「コチク」會社ブリヂル、ズブコフ等種種方法ヲ盡シテ奔走セシモ其功ナクシテ今日ニ至レリ就中ヅブコフノ如キハ本邦漁業家ヨリ運動費ヲ集メ聖彼得堡ノ本國政府ニ運動セリトイフモ其實否未タ俄カニ信スヘカラス

半島ノ長官オシュルコフ氏ニ就キテ漁業問題ニ付其意見ヲ叩キシニ曰ク半島ハ地理生產等未タ充分調査セラレス殊ニ半島ノ住民ハ河岸ニ群集シテ住居シ夏季中ニ住民食物ノ大部分ヲ占ムル乾魚及鹹魚等ヲ製造シ人類及飼犬ノ食ニ充テサルヘカラス八千五百ノ住民一萬一千餘ノ飼犬ノ要スル年額實ニ莫大ナリ若シ之ヲ忘却シテ無謀ニモ漁業ヲ解放センカ我等ノ土民飢ニ泣叫スルノ愚ヲ見ルコト火ヲ見ルヨリ明ナリ故ニ當分漁業ノ制限ヲ解カス其中官船官吏ヲ派シテ充分ナル實査ヲナサシメテ然ルニ後許可スヘキモノ

上否トヲ區別シ處置スヘキ方針ナリト蓋シ露國行政官一般ノ意向ハ此處ニ在ルモノナラン然レトモ半島ニ於テ地理產物等ノ實查ハ何時ヲ以テ實行シ得ヘキヤ疑フヘキモノアリ例ヘハ本年中半島ノ西岸ポリシヤニ泊セシ巡視警備艦「ヤクート」ノ如キ或ハ漁場看守官ノ如キ調查ノ命ヲ含ミテ西岸漁場ヲ巡回セルモ到底其器ニ非ス漁業ニ於ケル犯則行爲モ僅ニ十留乃至五十留ノ贈呈ヲ以テ不問ニ付スト云フ若シ又低廉ナル贈呈以テ彼レカ意ニ充タサルアレハ忽チ幾百留ノ罰金及物品沒收ヲ宣告ス此時ニ當リテ犯則者納ムル所ノ留(金)ナリ止ムヲ得ス哥港ニ納金ヲ請ヒ船舶檢查証ヲ預入ルレハ彼諾シテ去ルト云フ斯ル現況ノ内外ニ流ヲ漁業ノ生殺與奪ハ貪婪ナル彼等ノ左右スル所ニシテ氏ノ言フカ如ク之レカ實查ハ何レノ日ニカ完成スルヲ得ンヤ故ニ目下ノ狀況ハ尙今后數年間ハ繼續スヘク本邦人ニ半島漁場ヲ解放スルカ如キ露國ヲシテ今一年漁業上ノ制限緊縮ヲ加ヘシムル事ニ付テハ本邦漁業家モ亦多少ノ責任ナキニアラス彼等ノ年々若境ニ接近スルハ該地ニ於ケル彼等ノ行爲背信不當ニシテ半島住民ノ厭嫌ヲ招クコト少ナカラス換言スレハ自業自得トイフモ敢テ不可ナルナシ漁業家相互ノ嫉妬投資家事業家間ノ信用ノ欠乏ハ露國官府ニ對スル弊風ハ土民ニ對スル商業上ノ不正及ヒ漁業ノ濫獲ハ常ニ露國上下ヲシテ本邦人ヲ輕侮セシム彼等自己ノ將來ヲ杞憂セシムルノ因トナリ而シテ彼等ノ杞憂ハ規則文面ニ顯ハレ杞憂ヲ生スル毎ニ之ヲ除ク方法ヲ規定ス過去數年間ニ於ケル總督府ヨリ軍務知事ヨリ又州長官ヨリ發スル規則ハ其都度本邦人ノ漁業ヲ困難ナラシメタルモ漁業家自業ノ復讐トシテ自ラ招キタル罪モ決シテ少ナカラス今ヤ積年ノ宿弊一朝ニシテ拔クヘカラスト雖モ永遠ノ利源ヲ失ハサランヿ欲セハ須ラク一考スヘキ所ナリ而シテ漁業家ハ實ニ之ヲ知ラサルニアラス常常ニ利己ノ爲メニ駈レテ是等ノ非行ヲ敢テスルハ歎スヘキナリ前記諸弊ハ俄ニ之カ矯正ヲ企畫セントスルモ到底不可能ノ事ナリト雖モ若シ有効ナル矯正ノ策ヲ採ラン下欲セハ漁業家ヲ集メテ一團ノ組織ト爲シ協同一致信用ヲ重ンシ規則ヲ確守シ從來ノ痛弊ヲ除クニ如クハナシ惟フニ現今ノ本邦漁業家タルモノハ互ニ拔駈漁獲ヲ事トシ嫉妬背信其關スル所ニアラス今年ノ漁業スルヲ知テ來年ノ漁業アルヲ知ラス又漁獲物ヲ賣却スル上ニ於テモ同業互ニ競爭シテ其價格ヲ極端マテ低廉セシメ躊スル處ハ勞多クシテ利ナキニ至ラシムルモノナレハ將來永久漁業ノ利益ヲ得ント欲セハ宜シク協同一致進テ漁業ヲ爲スニモ退テ漁獲物ヲ販賣スルニモ駈引機宜ニ適スルニ至リテハ庶幾ハ彼等永遠ノ福利ナラン乎

鱈ヒ半島ノ西岸南部ヤヰナゴルイギナ部落ノ住民ハ數年前ヨリ鱈漁ニ從事シ其漁獲稍〻見ルヘキノアリ殊ニ外國鱈漁船ノ如キ今ヨリ五十年前ヨリ此業ニ從事セシ形跡アリ今此ノ業ノ沿革ヲ聞クニ初メ海獸獲船ノ半島ノ沿岸ヲ跋渉セシ時代一米帆船ノ路ヲ失シテ西岸南部ニ來航セルモノアリ偶然鱈魚ノ豐富ナルヲ知リ之ヨリ此漁ニ從事シ后米國人ハヤヰナニ居住シテ露西亞臣民ニ歸化シ盛ニ漁獲シテ本國ヘ輸出セリト紀元千八百六十年ニ至リテ米國人ハ鱈ノ棲息所即チ鱈ノ洲ヲ發見セリ此漁場ハヲゼルナヤ川ノ河

口ヲ去ル十五露里餘ノ海中ヨリ漸次西北ニ陸岸ヲ離レ二十五露里トナリ延長約三十海里ナリシコトヲ發見セリ米國桑港ニハ Lyndh and Hough Co., Richard's Co., 及 Mc. Collan's Co.ノ三營業者ノ起業セルアリ毎年十艘乃至十二艘ノ帆船盛ンニ漁獲セリ其ノ收獲高モ頗ル多額ニシテ毎漁二十萬尾ノ多キニ達シタリト紀元千八百十二年露西亞政府ハ領海內ニ於テハ鰒漁ノ免許ヲ受クルヲ要ス免許狀ナキモノハ漁獲スルコトヲ禁スル旨ヲ發布セリ故ニ米國鰒漁船ハ殆ト出漁ノ見込絕チタリシカ唯 Mc. Collen's Co.ノミ近年ニ至ルモ尙ホ此業ヲ廢セス漁業ニ從事セリ飜テ本邦船カ半島西南海ニ於テ此業ニ從事セルハ極メテ新シク報効義會所屬船舶ノ着業ヲ以テ嚆矢トス本年ニ至リテ三四艘ノ帆船ノ出漁ヲ見ルニ至レリ其ノ漁獲高ノ如キハ漁法及設備ノ不完全ナルカ爲メ未タ充分ナラス殊ニ製造法ノ如キ乾製鹽製ノ二法ノミニシテ其ノ技ノ未熟ナルニヨリ良好ナル結果ヲ收ムル能ハスト云フ[illegible]從來米國人ニヨリ從事セラレタル鰒漁ノ狀況ヲ聞クニ三百噸乃至四百噸ノ漁船ハ六七月ノ頃桑港ニテ漁業用原料一切ヲ積載シ半島ノ漁場ニ向フ航程三千海里約一ヶ月半乃至二ヶ月ヲ要スヲゼルナヤ河口ヲ離ル十五露里ノ海上ヨリ漁獲ニ從事シ漸次西北ニ向ヒ陸地ヲ去ル二十五露里ニ及フ海水三四十「サーゼン」ノ深處ニ良好產處トシ沿岸或ハ之ヨリ二十「サーゼン」ノ深處ハ魚類多キモ品質稍ヽ不良ナリト此處ニ漁スルコト約三ヶ月然レトモ其ノ漁獲期間[illegible]ヶ月半ニ過キス乘組船員普通三十名乃至三十五名ニシテ小船數艘ニ分レ各漁夫四或ハ六個ノ釣具ヲ以テ一日六百乃至九百尾ヲ獲稀ニハ千五百尾ヲ獲ヘシ和鰒ハ重ニ乾魚又ハ鹽藏シ一尾二三百匁ノ食鹽ヲ要ス生魚ノ肝臟ヲハ別器ニ採集シ肝油製造蒸溜機關ヲ備ヘ肝油ヲ製造ス一漁期中約一万尾ヲ得ト肝油ニ要スル肝臟ハ最モ精撰ヲ要シ病魚ノ肝臟ハ綠色ヲ呈シ極メテ有害ナルヲ以テ常ニ注意シテ之ヲ除去スト九月下旬ニ至レハ漁獲モ從テ少ク歸航ノ途ニ着ク其間前後五ヶ月ナリ其收支ノ有樣ヲ見ルニ出漁ニ要スル食鹽其ノ他器具一切六千弗五ヶ月間ノ食料及俸給約壹万弗ニシテ一ヶ月二千弗ナリ船員ノ給與ハ一等運轉士三十五弗二等ハ三十弗三等二十七弗水夫二十五弗ニシテ五ヶ月間ノ支出計壹万六千弗ナリ而シテ乾鰒及鹽鰒ハ約四万弗肝油一瓦壹弗半トシテ壹万瓦即チ壹萬五千弗トナリ收入計五萬五千弗ニシテ收支計算三萬九千弗ノ利アリ尙ホ之ヨリ控除スヘキモノ船舶修繕費漁業免狀及保險料等ナリ[illegible]

此業ノ有利斯クノ如シ從來米國帆船ノ漁獲ニ放任シ自國ノ富ヲ剝奪セラルヽヲ恐レ露國政府ハ前記ノ如ク規則ヲ設クルニ至レリ尋テ三十二年十一月黑龍沿道總督府管內海產假規則ノ發布ニ及ヒ其第二十六條ニ之ヲ規定セリ即チ本邦人ノ漁獲スル鮭鱒業ト同一範圍ニ屬シ外國人ノ漁夫ヲ使用スルヲ得ス[illegible]報効義會所屬船舶報効、占守、石川ノ三帆ノ出漁ハ占守島ヲ根據地トシ北方海上ニ漁獲スルコト米國帆船ノ如ク其ノ漁獲高モ目下漸次多額ヲ獲ルニ至レリト本年中函館港ヨリ出漁セシ帆船隆陽、常洋、朝日等ノ數船ハ表面上鱈漁トシテ占守ノ北海ニ出漁セシカ漁獲豫想ノ如クナラス終ニ近キ堪察加半島ノ西岸ニ到リ鮭鱒等ヲ密漁セリト言フモノアリ

第四章　採鑛業

半島ノ地質ニ就キテハ前編ニ於テ記述シタルカ如ク太古紀層ハ火山作用ノ爲メ地層ニ著シキ異動ヲ生セシメ其ノ中種々ノ礦物層ヲ露出シタル旨ヲ述ヘタリ此事夙ニ露國人中ニ喧傳セラレタルモ如何セン地ハ僻遠ニシテ寒冽ナレハ人々恐レテ之レカ起業ヲ敢テスル者少ク間々來航シテ實査スルモ交通ノ不便食物ヲ得ル困難等ヨリ中途ニシテ蹉航スル者比々皆然ラサルハナカリキ公命ヲ帶ヒ親シク半島各地ヲ巡視セシマルカリトフ氏博士スリヤニン氏等ノ如キモレースナヤノ石炭ベンヨンスキーノ砂金等ノ世ニ鳴リ振レタル處ノミ調査セシモノハ如ク深山幽谷ニ入リテ洽ク探究セシモノト想像スル能ハス彼等ハ露國特風ノ官吏的旅行ニシテ短日月ノ間ニ充分ナル探究ヲナシ得サルハ明ナリ然ルニ昨一千九百年浦港ノ人ワスリ、ワシリウチチ、ロコトコ氏半島ノ山野ヲ跋渉シ頗ル得ル所アリ本年八月ペトロパウロースク府ニ歸着シタルニ逢ヒ少シク氏ノ探險談ヲ聽クヲ得タリ然レトモ彼我ノ事情通セサルカ又ハ氏ノ事業ノ爲メ計畫ニ害ヲ及ホサンコトヲ恐レテカ充分指示スルノ確答ナカリシハ頗ル遺憾ナリ而シテ氏ノ今回ノ探險中發見ニ係ル礦種ハ金、鋼、亞鉛、石炭、硫黄ノ五種ニシテ其ノ中最モ多カリシハ亞鉛鑛ナリシカ金鑛モ亦少ナカラスト今其物語ノ概要ヲ記セン但シ眞否如何ハ保スヘカラス

一、金鑛、半島西岸ポリシャヤ河ノ上流ニハ金鑛屬ノ露出スルアリ又下流沿岸ニハ砂金ヲ產スルヲ見ル然レトモ少量ニシテ事業トシテハ計畫着手スヘカラスト該河ノ北方ナルチムチク　キフチクノ諸川モ多少瓦砂金ヲ有シ及東岸ノ各川ニハ砂金ノ產出ヲ見ルモ甚少量ナリト

二、鋼鑛、中央山脈ノ處々ニ點在セシモ充分ナル探險ヲ遂ケストイフ

三、亞鉛鑛、氏ノ最モ多額ノ標品ヲ採集シタル半島ノ有望地ハポリシャヤ河ノ上流ナルナチカ部落ニシテ其ノ質良好稀ニ純粹自然亞鉛ノ小塊ヲ見ル

四、石炭、半島ノ北部郡境附近ハ著シク石炭ヲ產シ或ハ海岸ニ露出シテ採集ノ便亦容易ナルモノアリ之ハ博士スクウニン氏モ明記セリ內地ニハ未タ發見セラレス

五、硫黄、東北海ノウキシスク灣ノ西南部ナル中央山脈ノ北部ニ多量ノ產出ヲ見ルト而シテ半島ノ三十八座ノ火山隆起セルヲ以テ火山地ノ產物トシ常ニ此礦ハ產出ヲ見ル

以上ハワシリー氏談話ノ要略ナルカ砂金、亞鉛、石炭、硫黄等ノ鑛種ノ採礦ハ稍ヽ有望ナルモノヽ如ク尙內地ヲ探險シタリシニハ良礦ヲ發見スルヲ得ヘシト何分半島內ノ地ハ人跡ノ未タ到ラサル所多ク交通ノ不便人煙ノ稀少氣候ノ寒冷ハ此業ノ探險者ニ對シ大ナル障害ヲ蒙ラシム

半島ノ採礦ハ過去ニ於テ從事セラレタル形跡ナク稀ニ其ノ一端ヲ聞クニ始終ハ漠トシテ求ムルニ由ナク其ノ產額ノ幾何ナルハ固ヨリ知ル能ハサルモ一米帆船濃霧ノ爲メ航路ヲ失フテ半島ノ東岸某處ニ着シ河流ニ水ヲ求メ船足ヲ維持スル爲メ砂礫ヲ積載シテ輕荷トナシ歸航ノ途ニ着シ本國ノ某港ニ入港シ砂礫ヲ陸持セントスルニ當リ砂金ノ包含スルヲ發見シ一噸五百弗ヲ以テ賣買セリトイフ話アリ

第五章　製造業

以上各種ノ生産物ヲ製造シテ其ノ用途ヲ需ムル敢テ難事ニアラス魚類ハ鑵詰樽詰トナシ毛皮ハ相當治理ヲ加ヘ以テ廣ク世上ニ於ケル需用者ニ供給スル途ヲ講スルニアリ

半島現今ノ産業ハ皆未製品或ハ粗製品ニシテ鹹魚ノ如キ粗製品毛皮ノ如キ未製品ノ儘需用セラルル而モノニシテ完全ナル製品ハ殆トナシ然レトモ露國「コチク」會社ノ鑵詰製造部及絞粕製造部ハ本年ニ至リテ起業セラレ本年ハ鑵詰製造部ハ一部ノミヲ建築シテ製造ニ着手セシヲ見シカ規模ノ宏大ナルコト從業技師ノ熟練ナルコト驚クニ堪ヘタリ製造機具ハ建築用材、鑵詰用葉鐵及箱材ハ米國ヨリ直輸入シ一部ハ我横濱函館ヲ通過シテ輸入セラレタリ技師ハ等シク米國ニ求メ本邦ヨリハ石炭、煉瓦、機械油等及職工百三十名ヲ供給シタルニ過キス鑵詰製造高年四ヶ月ニテ三十五萬個ノ豫定ナリト其原料タル魚類ハアワチヤ灣内ノ三漁場及近海六漁場ヲ以テ之レカ供給ヲナサシメ日本漁夫ヲシテ漁獲セシムル豫定ナリシニ總督ヨリ日本漁夫使用ノ特許請願ヲ却下セラレ爲メニ日本漁夫ヲ使用スルヲ得ス現今供給ヲナサシメアルハ露人ノ名義ナルモ實ハ職工中無爲之漁夫過半ヲ占メ之ヲシテ漁獲セシメ居ルハ事實ニシテ一日ノ漁獲モ比較的少數ニシテ目下一部ノ試製ニモ供給不足ヲ告ケ終ニ製造ヲ中止シテ建築工事ハ殘部ヲ急キ[illegible]ノ[illegible]製造品ハ遠ク英京倫敦ノ市場ニ輸送スルノ計畫ニテ北米桑港ヨリ大北鐵道ヲ通過シ太西洋航船ニテ仕向市場ニ達スルニアリ

鮭鱒等鑵詰製造ノ外搾糟製造機アリ鮭鰈等外雜魚ノ絞粕製造ニ着手スヘシト是又一日ノ製造約壹萬二千布度ニシテ灣内灣外ノ漁場ヨリ之レカ原料ヲ供給スヘシトイフ

前第二章ニ於テ毛皮類ノ産出ニ付キテ述ヘシカ此等ハ全ク半製品或ハ未製品或ハ未製品即チ熟皮生皮、鹽藏皮等ノ儘輸出セラレヲ以テ今之ヲ精製シ治理ヲ加フル敢テ難事ニアラサルモ技師機具等一切之ヲ他邦ニ供給ヲ受クルハ繁ナル交通不便トノ爲メ今日起業スルモノアルヲ見ス

前記露國「コチク」會社ノ起業ニ係ル鑵詰製造業及搾糟製造ハ今後隆盛ニ赴クヘキヤ否ヤヲ見ルニ目下ノ現況ニテハ殆ト隆盛ヲ見ルヘキ理由ヲ見ス何トナレハ本邦漁夫ノ如キ漁業ニ熟達シタルモノヲ使用スルヲ得サレハナリ殊ニ此製造業ノ計畫ハ已ニ二三年前日本漁夫使用中ノ計畫ニシテ海産業假規則ノ範圍内ニ入ルヲ豫期セサリシ時ニ至リ元來東部露亞ニ於ケル魚業ハ薩哈嗹島及黑龍江下流ニ對シテノミナラス三十二年夏期中我二帆船ノ堪察加ニ出漁シタルヨリ當該官吏ハ等シク本邦人ノ跋扈ヲ抑制スルノ方針ヲ採リ管ニ堪察加半島ノミナラスアナドイル郡ニ至ル迄沿道州全部ニ普及セシムルニ至レリ是レ三十二年十二月ノ漁業假規則ノ明記セラレシ所ナレトモ仝會社俄ニ事業ノ計畫ヲ中止スルヲ得ス米國ニ於ケル製造機關ハ已ニ完成シ輸送ヲ待受クツヽアリシ當時ナルヲ以テ三十三年中機關諸具大部ノ輸送ヲ終ヘ一方ニハ前章ニ述ヘタル如ク日本漁夫使用ノ特許ヲ總督府ニ請願シタルモ終ニ却下ノ否運ヲ見タレハ原料繼

カス爲メニ此業ノ前途見込ナキニ至レリ然レトモ將來若シ幸ニ日本漁夫使用ノ特許ヲ得ルニ於テハ如何ナル發達ヲ來スヘキハ得テ知ルヘカラス

第三編　出入船舶ノ狀況

堪察加半島諸港ニ出入スル船舶ハ毛皮雜貨ノ交易漁業及其他ノ目的ヲ以テ往來シ毎年航路ノ開始ハ五月ニシテ十一月ニ終ル其ノ期間六箇月間ナリ而シテ此等ノ貿易ニ使用セラル、船舶ハ米露及日ノ三國船ニシテ東ハ北米桑港ヲ終點トシ西ハ黑海ナルオデッサヲ末點トシ南ハ函館上海ノ間ニアリ北ハコマンドルアナドイルニ至ル外地貿易線ト河口堪察加及チギールノ兩港ニ終ル內地貿易線ナリトス外地貿易線ハ東西南北ノ四線ニ分レ其ノ中最モ古キハ東線ニシテ西線北線及南線之ニ次ク今其ノ各線ノ沿革ヲ述ヘシ

東線　本線ノ開始ハ紀元千七百年代北太平洋ニ於ケル毛皮貿易ノ爲メ開起セシニ始マリ以テ今日ニ至ル約二百年間繼續セシ最有力ナル貿易線ナルニ船舶ノ出入ニ於テハ比較的少數ニシテ連年不動ノ姿勢ヲ取リ來レルモノヽ如シ毎春二三ノ帆船麥粉及其ノ他ノ雜品ヲ積載シテペトロパウルースク港ニ入リ秋期毛皮ヲ轉セテ歸ル之レ此線ノ狀態ニシテ敢テ盛衰ナキニアラサリシモ殆ント前述ノ次第ナリキ是レ貿易品ナル毛皮類ノ高價ニシテ比較的容積ノ少量ナル爲メ容積ノ大ナル船舶ヲ用セス且ツ多クヲ要セサルニ依ル本線ノ延長三千五百浬帆船ノ航程約一ヶ月半此ノ外地貿易船ハチギール及河口堪察加ニ於ケル支店ニ貨物ヲ給供スル必要アリ茲ニ右兩地間ニ於ケル內地沿海貿易ヲ兼ヌルコトトナル

本線ノ重ナル從業者ハ左ノ如シ

第一　露　米　商　會　自紀元千七百九十九年至紀元千八百六十七年

第二　「クツソン、コール」商會　自紀元千八百六十七年至紀元千八百九十一年

第三　露國「コチク」會社　千八百九十一年

西線　本線ノ起原ハ紀元千六百五十年代露國ノ東西遠征隊ノ一部「デヤネフ」隊ノ一部」カ半島ニ漂着セシヲ嚆矢トスト雖モ貿易上ノ航路ト云フヲ得ス故ニ商路トシテノ交通ハ千七百十四年オホツク府ヨリ半島ニ至ル海路航通ノ開始ニ基スルカ如シ而シテ本線ノ開發ハ東線ノ最盛期即チ「クチソンコール」商會ノ時代ナリトス仝商會カヲホツク海沿岸ノ產皮ヲ買收スルノ目的ヲ以テギヤカ、オホツク及アイアン等ノ諸港ニ航路ヲ開クヤ紀元千八百六十年代ニ於テ浦港カ露人ノ手ニ入リテ后商港トナリタルヨリ此ノ西部線ハ稍ヽ船舶ノ往來ヲ見ルニ至リ殊ニ義勇艦隊漕船カ千八百九十年ヨリ浦港ヲ起點トシ薩島ノ哥港ヲ經由シペトロパウルースクヲ終點トシ復航ニハオホツク沿岸諸港ヲ經テ浦港ニ歸着スル航路ヲ開キシヨリ益々發達スルニ至レリ是ヨリ先浦港ヲデツサ間ノ航路ハ一千八百八十年ニ於テ義勇艦隊漕船ニテ其緒ヲ開キ「クツソンコール」商會露國「コチク」會社相次キテ浦港間ノ交路ヲ取リテ茶砂糖等ノ貨物ヲ北部諸港ニ輸送スルニ至リシナリ昨年ニ至リテ東清鐵道會社ハ沿海洲薩島ノ韃靼海峽線等ノ航路ヲ開キ「セウエリヨーフ」商會ノ後ヲ繼キ尙ホ義勇艦隊漕船ノ航路タリシ白令オホツク西海ノ航海權ヲ收得シ本年ヨリ始メテ年四回ノ定期航海ヲナスニ至レリ其航海ハ五月ヨリ始メ八月ニ終ルノ定メニシテ昨年中「チヽハル」(六五〇噸)「チデコフ」(六四七噸)「ムクデン」(八八〇噸)ノ三漕船ヲシテ航路ノ探險及貯蓄石炭ノ運送ノ爲メ半島ノ航海ヲナサシメタリ

南線　本線ハ最新ノ航海線ニシテ當初「クツソン、コール」商會ノ晩年頃ヨリ長崎、横濱、神戸ニ對シ時ニ船舶ノ出入ヲ見露國「コチク」會社ノ起ルニ及テ其ノ所有船舶ノ冬期碇繫地ハ以上ノ三地ヲ撰ヒ春期貨物ヲ積載シテ半島ニ向ク此ノ時ニ當リテ茶ノ生產地ナル上海港モ亦此ノ線ニ含マレ冬期、長崎港等ニ碇繫セル船舶ハ上海ニ到リ紅茶磚茶ヲ積載セリ紀元千八百九十六年以後仝會社カ半島ノ漁業ニ着手スルニ及ヒテ每年四月ノ頃神戸港ニテ食鹽ヲ積載シ横濱港ニテ日用家具等ノ雜貨ヲ積込ミ函館港ニテ漁業用網、小船等一切ノ器具ヲ載セテペトロパウロースク港ニ向フハ五月ノ上旬ナリ歸航ニハ前年中ノ漁獲物積殘品ヲ沿岸漁場ヨリ廻送シ之ヲ積載シテ六七月頃本邦ニ輸入シ上海港ニ到テ茶、浦鹽斯德港ニ本國ヨリノ砂糖及雜貨ヲ受クオホツク海沿岸諸港及半島西岸漁場ヲ經テペトロパウロースク港ニ入リ九月以降漁獲物運送ノ爲メ本邦半島間ヲ往來ス是レ南線ノ主因タル漁業界ノ一部ナリ一昨三十二年(紀元千八百九十九年)本邦漁船ノ堪察加半島ニ出漁スルアリ昨年ニ於テ著シキ增加ヲ示シ本年ニ至リ稍ヽ衰色ヲ示シタルハ前編ニ於テ述ヘタルカ如シ此ノ漁業船往來ノ開始ハ最モ新シク且年二三回ノ往來ナリシヲ以テ充分航海者ノ經驗ヲ積ミ特殊ナル航海事情ヲ明カニスルヲ得ス殊ニ此般ノ航海者ハ多クハ文盲者ニシテ學理上ノ智識ニ乏シク航路ノ適否等ヲ知ルモノ甚タ稀ナリ此漁業船ハ起點ヲ函館港トシ堪察加半島ノ東西兩

岸漁場ニ向フ東スルモノハ常ニ千島諸島ノ東海ヲ、西スルモノハ千島ノ西海ヲ沿フテ航行ス途中濃霧或ハ暴風ノ害アルヲ以テ常ニ陸地ヲ遠カルハ彼等ノ最安全ナル方法ナリ雖トモ飲用水欠乏或ハ船具船体ノ破損等ノ爲メ止ムヲ得ス寄港スルコト多シト云フ時ニ片岡灣紗那オシヤマンベツ、色丹、厚岸等ハ彼等ノ避難ノ爲メ或ハ口實ヲ設ケテ屢〻寄港スル所ニシテ中ニモ片岡灣ノ如キハ稅關ノ設備ナク警察ノ機關ナキヲ以テ往々密輸入ノ虞ナキニアラス

北線　堪察加半島ノコマンドル島及アナドイルニ通スル航路ハ稍〻古ク東線ト相通スルコマンドル線ト北アナドイル線ノ二ナリ紀元千八百八十九年キヤギンスク郡ノ東北一部ヲ分割シテアナドイル郡ヲ新設スルニ及ヒテペトロパウロースク港トノ交通始メテ開發セラル露兵デジユネフカ紀元千六百四十八年北氷洋岸ナルコリマ河口ヲ出航シ亞細亞ノ東端ヲ回航シアナドイルニ遠征セシニ當リ無限ノ氷原ニシテ土民ノ棲息モ少カリシニ白令海峽ニ於ケル捕鯨業ノ發達ハ紀元千八百年代ヨリ起リ米國人トノ毛皮海馬牙等ト酒精トノ貿易ハ益〻甚タシク爲メニ土民保護ノ目的ヨリアナドイル郡ヲ設置スルニ至リ之ト同時ニペトロパウロースク港トノ航通開クルニ至リタリ殊ニ仝郡新設以後ハ一年ヲ支持シ得ヘキ食糧雜品ヲ運送スルコトヽシ今三十四年ヨリ東清鐵道會社汽船ハ第二次浦港發便ヲ以テペトロパウロースク河口堪察加港ヲ經由シアナドイル港ニ航海セシム本年ハ露漁船吉林號(八九一噸)ヲ之ニ當テタリ航路千四百浬ニシテ六晝夜ヲ要ス船舶ノアナドイルニ碇泊スルハ約二週間ナリトス

コマンドル線ハ第一節桑港線ト其基點ヲ一ニシコマンドル島住民ノ維持物品ハ凡テ海獸捕獵會社ノ義務負擔ニシテ之ヲ運送供給スルコト連年殆ト異動ナシ現時ハ露國「コチク」會社ノ漁船「コチク」號(二七一噸)帆船「ペーリング」三七七噸)及「ポブリツク」號(一〇〇噸)ヲ以テ之ニ充テツヽアリ然ルニ行政廳ニテハ尙ホ一般人民ノ往來及諸般ニ便利ヲ與フル爲メ東清鐵道會社漁船ノ第一次(六月)及第三次(八月)ノ漁船ヲシテ仝島ニコリスク港ニ航海セシム航路約三百浬日程一晝夜餘ナリ

以上四線中最有力ナリシハ桑港線ト北線中コマンドル線ニシテ紀元千七百年代ヨリ連綿トシテ今日ニ至ル然ルニ東線カ將來ニ於テモ尙ホ過去ノ如ク繼續シ得ヘキヤ否ヤハ少シク思慮ヲ要ス何トナレハ東線ノ重ナル成立要素ハ半島コマンドル島及其附近ニ產スル貴重毛皮及鏞喆等ヲ倫敦市場ニ送附スルコト及麥粉雜品ヲ取寄スルコトノ二條件ニシテ若シ他ニ之レヨリモ比較的便利ナル航路ノ開發アランニハ終ニ又昔日ノ如クナルヲ得サルヘシ今後東線ト競爭場裡ニ立チテ其便否ヲ爭フモノハ浦港ニ至ル西部航海線ト浦港ヨリモスクワ及アントワルプ港等ヲ經由スル鐵路ニシテ倫敦市場ヲ目的トスル半島產ハ將來此便路ヲ採ルニ至ルヘキハ疑ヲ容レス何トナレハ米國線ト西比利亞線トノ運送ニ要スル日數ニ於テモ既ニ西比利亞線ハ米國線ヨリ一ケ月以上ヲ短縮スルヲ得レハナリ(米國線九千七百九十八哩六十日間　西比利亞線八千四百八十一哩二十五日間)

南線ノ如キモ堪察加半島ノ漁業ト相俟テ盛衰スルモノ前已ニ述ヘタルカ如ク漁業ニシテ若シ將來モ過去ノ如ク繼續スルヲ得ルトスレハ減少スルコトナカルヘシ而シ終點ナル上海港ハ近年露國漁船會社ノ擴張

ニヨリ浦港トノ關係益〻密ヲ加ヘタルモノアレハ浦港線ニ合セラルヘシ

北線ハ將來ニ於ケル現今ノ如クナルヘシ何トナレハ其生産力ニ於テ大ナル變動ヲ來スコトナケレハナ

リ

第四編　堪察加ト本邦トノ關係

第一章　歴史的ノ關係

本邦ト堪察加トノ歴史的關係ハ紀元千七百年代前ハ漠トシテ知ルヲ得ス日露ノ境界モ定マラス或ハ言フ古代半島ハ我叛圖荒服ノ地ナリト或ハ土民ノ風俗習慣ヨリ觀ルトキハ清領タリシト稱シ我邦ニ於テモ當時交通機關タル船舶ノ築造未タ進マス内憂常ニ絶エサルニ殊ニ地ハ遠ク且寒クシテ力ヲ伸フル能ハサリシナリ德川幕府トナルヤ鎖國令出テ邊境ノ事益〻蒙々トシテ明カナラス全末葉ニ及ンテ始メテ防備ノ策ヲ講シ東洋ノ風雲暗澹トシテ日ニ危急ヲ傳ヘ已ムヲ得ス貿易開港ノ端緒ヲ開キタル時ハ露ハ既ニ亞細亞ノ北邊ヲ席捲シテ我北洲ニ接シツヽアリキ露ハ早ク紀元千五百八十一年露兵「エルマック」ノ遠征ノ許ニウラルノ山系ヲ越ヘ千六百四十八年ハ西比利亞ノ東端ニ達シ千六百九十七年始メテ堪察加半島ヲ收メ年ヲ追フテ南進シテ得撫擇捉及國後ニ及ヒシ頃ハ我天明年度(紀元千七百八十年代)ナリ當時露國ハ孜々トシテ土民ノ慰撫ニ勉メ露國々教タル希臘舊教ノ布教ヲ計リ宜教師イヲユコウヲ派シテ寺院ヲ建テ十字架ヲ頸ニ掛ケテ信服ノ意ヲ表セシム天明六年(紀元千七百八十六年)幕府ハ最上常經ヲシテ露人ヲ國後擇捉ノ二島ヨリ追放セシメ以上二島ヲ本邦領トシ露ハ得撫島ヲ南界トシ是ニ於テ始メテ境界ノ一定スルコトトナレリ

得撫以北諸島ハ全ク露ニ屬シオホック港ヲ要港トシイルクートスクヲ東亞總督府ノ所在地トシペトロパウロースク府ハ未タ微々タリシモ千島諸島トノ軍事的交通毛皮貿易船ノ往來アリシ而シテ土民ニ於テモ能ク小舟ニテ千島諸島ヨリ堪察加半島ニ渡航セシモノ、如シ寛政年間高田屋嘉兵衛國後擇捉ノ航海探險ノ際彼レカ土民ヲ慰撫スルコト頗ル厚ク露領諸島ヨリ來集セシ者アリ嘉兵衛一日米ヲ卓上ニ撒キ土民ニ就キテ千島諸島及堪察加ノ配列ヲ型ラシメ地ノ狀況航海ノ難易ヲ聽キ大ニ得ル處アリシ其時堪察加及北島諸島ニ渡航セシモノアリシト

紀元千八百十一年露國軍艦「ヂヤーナ」「ゾーチク」ノ両帆船千島列島ヲ測量シテ國後擇捉ノ二島ニ冠シ我守兵ノ爲ニガロニン少佐外七名捕虜トナル翌年八月高田屋嘉兵衛露艦ニ捕ハレペトロパウロースク府ニ至リ翌紀元十八百十三年五月「ヂヤーナ」艦ニ送ラレガロニン以下ノ捕虜許放事件ニ付國後ニ歸着ス當時彼ハ捕虜ノ如クニシテ捕虜ニアラス賓客ナリキ「ヂヤーナ」艦長リコルドハ彼ヲ遇スルコト頗ル厚カリシハガロニン以下ノ消息ヲ知リ及ヒ之ヲ取戻サントスル一ノ方便ニ過キサリシコトヲ知レリ彼亦能ク忍ヒ能ク交リ此際半島千島ハ言フモ更ナリ露西亞本國ノ事情等ヲ觀察スルニ勉メ大ニ知得セシ所アリシナリ爾后明治八年樺太千島交換ニ至ルマテ著シキ事件ナク交換以后二年即明治十年（紀元千八百七十七年）露國ハ盛ニ移民セシ「アレウート」種族八十三名ヲ得撫新知及其他ヨリ堪察加半島東南岸アペチヤ灣ニ移住セシメ斯クシテ千島諸島ト堪察加トノ交通ハ中絶シ横濱長崎等ニ對シ「クツソン、コール」及「コチク」會社ノ船舶相續キテ年一二回ノ航海ヲ始メ明治二十九年ヨリ漁業ノ爲メ函館港ニ全時ニ露國燈臺建築船ノ「トルゼニク」號（二七六噸）カペトロパウロースク燈臺建築用煉瓦「セメント」等輸出ノ爲メ函館港ニ入港セルアリ爾后連年漁業船舶ノ往來アリテ室蘭小樽両港ニ寄港セルアリ明治二十六年報効義會員ノ占守島ニ移住スルニ至リ半島ト占守島トノ間ニ自ラ連絡ヲ通スルニ至リ尋テ本邦人ノ漁業着手トナリテ俄然本邦ト半島トノ交通頻繁トナレリ

第二章　地理的關係

東亞ノ地圖ヲ開キ本邦ト露領堪察加トノ形勢ヲ見ルニ亞洲大陸ノ東邊ニ沿ヒ約二千四百浬ニ亘ル一連ノ列島西南ヨリ東北ニ延ヒ亞洲ノ極東部ニ一大半島トナルヲ見ルヘシ之レニ依リテ之ヲ觀ルニ本邦諸島ト堪察加半島トハ此ノ自然的地容ニ於テ相一致シ殆ト其ノ間ニ徑庭ナシ又此中ニ配布セラレタル人類并ニ動植物ニ至ル迄相類似シ両者ノ地理的關係ハ著シク相密接セルモノ、如シ唯半島ハ大陸ニ接續シテ隆起シタルノ差アルノミ

點々碁布セル島嶼ハ尚庭中ノ飛石ニ彷彿タリ其ノ交通ノ便ヤ言ヲ俟タス昔時千島諸島ノ海上交通機關ハ渺タル夷舟及皮張舟ニシテ島ヨリ島ニ飛石ヲ蹈ムカ如ク容易ニ交通スルヲ得堪察加半島トノ交通モ土人間ニハ易々タリキナリ

明治二十六年報効義會ノ千島ノ開拓ニ從事シ千島ノ極島ナル占守島片岡灣ヲ根據地トシ爾來辛ヲ嘗メ難

ヲ排シテ拮据經營今日ニ至ル地ハ舘函港ヲ距ル約九百浬横濱ヲ距ル千二百浬ニシテ堪察加ペトロパウロースク港ニ至ル百六十五浬アヤン港ニ七百五十浬オホツク港ニ六百八十五浬オラ港ニ五百七浬ウーズスク港ニ七百三十浬ギダガ港ニ七百三十浬チギール港ニ五百浬ポリシャ河口ニ至ル正北百二十浬オハラ河口ニ八十浬ヤヂノ河口ニ六十浬オゼルナヤニ四十八浬カムバラナヤ四十浬ニロバトカ岬西北部ニ二十四浬ロバトカ岬東北部トリイ、セストルイ(三姉妹)四十五浬ニシテ堪察加半島南部ニ對シ著シク接近シ占守海峽ノ最近距離ハ僅ニ六浬ニ過キス呼ヘハ應セントスルノ姿ニテ小舟モ能ク通航スルヲ得ヘシ然レトモ海峽附近ハ沿岸暗礁多ク且ツ潮流(西北ヨリ東南ニ)ノ激甚ナル爲危險少ナカラス殊ニ此方面ニ多キ濃霧ハ通過ヲシテ益ス困難ナラシムト露巡洋艦及露國「コチク」會社ノ漁船ノ如キ重ニ此ノ航路ニ依ルト雖モ帆走船ハ南口ヨリ北口ニ通過スルニ難ク北口ヨリ南口ニ通スル敢テ難事ニアラスト云フ

堪察加島ノ南部ハ第二編生産物ノ狀況ニ於テ述ヘタル如ク半島中最有力ナル生産額ヲ有シ魚類毛皮等ノ豊富ナル地方ナリトスポリシヤノ鮭、鱒、貂、狐、水獺及海豹オバラノ鮭、鱒、ヤヂノノ鮭、鱒熊、オゼルナヤ及カムバラナヤノ鮭、鱒以上各地海上ノ鰐等及トリイ、セストルイ附近ノ臘虎ハ其ノ價額ニ於テ半島總産額ノ過半ヲ占ム尚ホ西岸ポリシャヤ以北ニ於テモ魚類毛皮ハ沿岸到ル處之ヲ得ラルヘク千島極島ノ地勢ハ堪察加半島ノ富源ニ對スル實ニ形勝ノ地位ニアリト言フヘシ

序ニ言フ斯カル形勝ノ地位ニアル極島ハ現今如何ナル狀況ニアルカヲ聞クニ本年ハ昨歳ト異ナルナキモ唯獨リ寂寥ニ感シタルハ漁船ノ出入ナカリシコト是ナリト云フ昨年迄ハ露國「コチク」會社カ帝國漁船掘陽丸(六八一噸)ヲ雇入レ半島及オホツク沿岸諸港ヲ航海セシメアリシニ今年ヨリハ露國漁船「パイカル」號(七一三噸)ヲ以テ之ニ代ハラシメシカ掘陽丸ノ如キハ半島東岸ヨリ西岸ニ往復スルコトノ多キ爲メ時ニ濃霧若クハ暴風雨ノ際一時好避所トシテ小千島海峽(幌莚海峽)ニ碇繫セシメ前記「パイカル」號之ニ代リテヨリ數次東西岸ニ往復シタルモ勉メテ不開港ノ寄港ヲ避クルヨリ占守島ニ漁船ノ船影ヲ沒スルニ至レリ本邦船ハ風雨或ハ船体故障等ニ托シテ不開港ニ寄港スルモノ多ク幸ニ本年ハ堪察加漁場ニ出漁セシ船舶ハ出漁準備ニ多クノ日數ヲ費シ往航ニハ漁期ニ後ルヽ恐レアリ歸航ニハ秋月荒天ノ千島海上ノ荒ルヽヲ恐レタレハ占守島ニ寄港スルモノハ少ナカリシ

本年六月帝國帆船隆陽丸(一三三噸)常洋丸(四三噸)朝日丸(四九噸)ノ三艘ハ占守近海鰐漁ヲ口實トシテ占守島ニ航行セリ隆陽丸ハ航海前(六月八日函館發)ヨリ既ニ密航ノ企ヲナシ報効義會員ニモ申含シ堪察加西岸ポリシャヤ河附近ニ投網セントセシモ果サス尚ホ北進百三十浬ノコルバコーク河ニ前年中積殘食鹽四百七十五俵外魚類及雜貨ヲ收メ尚ホ北六十五浬ノイチヤニ於テ鮭約二千鱒八百尾ヲ漁獲シテ前年中ノ積殘品食鹽約三百五十俵ヲ積載シ南下三十五浬ノヲブルコヤノ河ニ漁シ鮭一萬三千尾鱒三千二百尾ヲ獲タリ當時ポリシャヤ以北沿岸漁場ノ監視官吏コーリニヨフハ之ヲ認メ密漁犯則ノ宣告ヲ

與ヘントスルヤ知人之ヲ聽キテ彼我ノ間ニ奔走協定シテ若干ノ贈賄ヲ以テ僅ニ免カル、ヲ得占守ニ歸航シ曩ニ申合ノ密漁々獲物ヲ報効義會ノ漁獲物トシテ仝本部ヨリ證明書ヲ交付スル約束ナリシニ依リ漁獲物證明書ヲ受ケ猶同島近海ニテ鱈約三百尾鱒三百尾ヲ漁シ此處ニ報効義會々員七名及外食料雜品等ヲ積載シテ羅處和島（東經百五十二度五十分北緯四十七度四十五分）ニ送リ航海中暴風ノ爲メ根室納紗布岬ノ東北海ナル水晶島ニ避難シ續キテ九月二十九日函館ニ入港ス事ヲ秘シ仝ク關稅逋脫ヲ圖リ稅關ニ對スル手續ヲ履行セサルヲ以テ處罰セラレタリ常洋丸ハ占守島ニ航行シ漁業中堪察加西岸南部ノヲゼルナヤ河附近ニ漂ヒシモ漁セスシテ占守島ニ歸航シ仝島附近ニテ紅鱒一萬二百尾ヲ漁獲シテ函館港ニ入リ外國寄港ノ申告ヲ稅關ニ提出セリ朝日丸ハ占守島ニ航行シ報効義會貨物鮭二千五百七十尾ヲ積載シ函館港ニ入レリ

右ハ僅ニ其一例ヲ擧クタルニ過キスト雖モ要スルニ占守島ハ堪察加航路ノ衝ニ當リ船舶ノ寄港スルモノ少ナカラサルヲ以テ關稅法ノ取締ヲ周到ニシ且該航路往復ノ船舶ニ便利ヲ與ヘント欲セハ片岡灣ヲ開港トスルノ必要アルヘシト信ス現今ニ於クル堪察加ノ重要生產品ハ毛皮及魚類ノ二種ニ限レトモ半島內地交通ノ途開クナハ西岸各河ノ水源ニ繁茂セル樹木ハ又能ク建築材ニ適スルモノアリ之ヲ冬期ニ材採シ夏期融雪ヲ俟チテ流下セシムルコト難事ニアラス之ヲ漁業仕込ノ期ニ於テ歸航ヲ利用シ積載シ來ルモ可ナリ故ニ毛皮魚類ニ加フルニ木材ヲ以テシ併セテ毛皮買收ニ要スル麥粉、食鹽、綿布、茶、砂糖ノ五種ヲ輸出スルノ事ヲ總テ本邦人ニ營マシムルヲ得ルコト甚タ難カラスト信ス言甚タ奇ナルカ如キモ前既ニ說キタル如ク半島ノ毛皮雜品貿易ハ露國「コチク」會社ノ壟斷ニ歸シツ、アリシモ仝會社カ不當ノ暴利ヲ得ルヨリ土民モ今ハ稍ヽ遠カルノ形勢ヲ示シ商人トシテ會社ハ唯一ナルヲ以テ止ムナク土民ハ毛皮雜品ノ交換ヲナスモノナレハ若シ他ニ競爭者ヲ生スルアラハ水ノ低ニ就クカ如ク本邦人ノ手ニ納ムルコトヲ得ヘシ然ルニ半島ニ對スル函館又ハ横濱ヨリノ航路ハ如何ニモ不便ニシテ四時交通スルヲ得ハ若シ片岡灣ヲ開放シテ公然外船ノ寄港ヲ許ストキハ半島ノ產物ヲ買收シ或ハ其需品ヲ供給スルノ中繼所トナリ冬期海上不穩ノ時ニ際シテモ依然貿易ヲ營ムヲ得ヘク半島住民モ亦占守ニ來リテ賣買交換ヲ營ムニ至ルヘク其便利言フヘカラス殊ニ半島ニ仕向クル本邦船ニシテ不開港入港ノ法律ニ觸ルルヲ恐レテ千島各島ノ漁獲物硫黃又ハ根室地方ノ產物ヲ積載スル能ハサルモノハ片岡灣ニ港寄シテ船舶ノ資格ヲ變更シ自由ニ以上ノ不便ヲ除クコトヲ得ルニ至ルヘク其航海者ヲ利スルコト少ナカラサルノミナラス現今行ハレツ、アル關稅法違反ノ跡ヲ絕ツニ至ルヘキナリ

堪察加半島紀要

（尺度ハ總テ本邦制ニ換算セリ）

堪察加半島紀要

半島ノ位置

地勢及山嶽

堪察加ハ亞細亞大陸ノ北東端ニ位スル半島ニシテ露國ノ沿海州ペトロパウロウスク區ニ屬シ西ハ痾哥斯克海ニ面シ東ハ堪察加海及白令海ニ臨ミ北西ハ沿海州ノギーヲカ區ト接シ約七萬九千八十八平方里ノ面積ヲ有シ山嶽多ク其中央ニ於テ北ヨリ南ニ向ヒ蜿蜒スル堪察加山脈アリ其北端ヲウオヤムポリスカヤ山ト稱シ北ニ趨リ漸次低落シテ半島ト大陸トヲ連續スル地頸ニ至リ北氷洋ニ臨ム所ノ平山ト爲ル而シテウオヤムポリスカヤ山ハ所々ニ登攀ニ便ナル坂路ヲ形爲シテ西岸ニ近ク接シ半島ノ東部ニアラギンスカヤ山アリウオヤムポリスカヤ山ヨリ較ゝ高ク本山脈ト並テ白令海峽ニ向ヒ趨リ漸次低落シテ海岸ニ至リ多數ノ暗礁ヲ散布ス總シテ半島ノ諸山ハ火山質ナルコト其現ニ噴火スルモノト既ニ其烟ヲ止メタルモノト又温泉ノ多キヲ以テモ知ラルヽナリ而シテ現時噴火スルモノハ其數十二アリ孰レモ半島ノ東部ニ偏セリ

(一)クロチエフスカヤ尖山(一萬五千四十呎) (二)シベルチ尖山(九千八百九十八呎)(三)ポリシアーヤ、トルバチア山(七千八百呎) (四)キジメン山 (五)ウーゾン山 (六)キシピニーチ山 (七)ポリショイ、セメチイ山 (八)マーロイ、セメチイ山 (九)ジウバノア尖山(八千四百九十六呎) (十)アクチンスカヤ尖山(八千三百六十呎) (十一)アサチア山 (十二)チアオフチ山ニシテ今日既ニ噴火ヲ止メタル火山ハ三十ヲ以テ數ヘラル、カ其五分ノ四ハ同シク半島ノ東部ニ屬シ其餘ハ西部ニ屬スインスチカヤ尖山(一萬六千九百二十呎)ハ半島

第一ノ高山ニシテ之カ噴火時代ハ太古ニ屬スルヲ以テ考フ可ラス其他コリヤツスカヤ山(一萬千九十呎)、ウツキンスカヤ山(一萬九百九十八呎)、クロノツスカヤ山(一萬六百呎)、クレストーフスカヤ山(九千呎)、ウヰリユチンスカヤ山(七千呎)ノ如キハ顯著ナルモノナリ又有名ナル温泉ノ數ヲ擧クレハ二十ヶ所アリ

堪察加半島ノ諸山ハ火山質ナルヲ以テ火山性ノ産物ニ富ミ中央山脈ノ北部ニ於テイチンスカヤ尖山マテノ諸山ハ鎔化石(バサルト)「トラヒート」等ヲ産シ其南部ニ於ル諸山ハ白班紅石(ポルフヒール)、花崗石「シエニート」、板石等ヲ多ク出シ北緯五十六度ヨリ南ニ向ヒ西岸ニ於テハ往々尨象(マモンツー)ノ殘骸ヲ發見シ或ハ柔軟動物ヲ包含セル砂石ヲ採掘スルコトアリ

河

ポリシアーヤ河ノ河口及クリールスコエ湖ノ周圍トシリヤクヤ灣附近ニ於テハ銅ヲ出シ半島西岸ノ各所及ポリシアーヤ河ノ沿岸ニ於テハ磁鐵石ヲ生シチギーリ河ニ於テハ褐瓦炭及琥珀ヲ生シイトカンスカヤ灣ニ於テハ雲母ヲ生スルモ到ル所最モ多ク見ルハ自然硫黄ナリ特ニ火山ノ附近ニ於テハ一面ニ此種ノ硫黄ヲ以テ其地層ヲ蔽ヘリ然レトモ堪察加半島ノ礦物ハ未タ採收ニ着手スルモノアラサルナリ

湖

堪察加ニ於ル各河ハ多ク其半島ヲ横流スルカ故ニ長キモノアラス然レトモ獨リ其半島ノ名ヲ擔ヘル堪察加河ハ中央山脈トクラキンスカヤ山脈トノ間ヨリ流出シテ南ヨリ北ニ向ヒ較〻半島ヲ縱斷スルヲ以テ其長百四十七里ニ達セリ而シテ此堪察加河ノ通スル左右ノ低地ハ半島中ノ沃土ニシテ砂泥及粘土ノ外ニ厚一吋乃至四吋ノ肥土ヲ以テ蔽ハル、所少カラス又河流ノ方向ハ山ノ位置ニ從ヒ知ルヲ得ヘクシテ孰レモ其水源ヲ中央山脈ニ取リ西流スルモノハ痾哥斯克海ニ注キ東流スルモノハ白令海ニ注ケリ

堪察加河ハ北緯約五十四度ニ其水源ヲ發シ二支流ヲ有シ一ハ中央堪察加山脈ヨリ流出シテ東ニ向ヒ他ハクラキンスカヤ山脈ヨリ流出シテ西ニ向ヒ其合流點ヨリクレスト村マテ北東ヲ指シテ流レ尖レヨリ俄カニ東ニ折レテ白令海ノ堪察加灣ニ注ク此河ノ流ハ上(ヴエルフネ)カムチアツスクマテ急ニシテ且ツ洲多キ爲メ舟行ニ不便ナルモ其以下ハ河口マテ充分ニ舟ヲ通スヘシ河幅ハマシウルスコエ村ノ邊ニ於テ約六十間乃至七十間ニシテ六呎乃至八呎ノ水深アリコズイレフカ村ノ邊ニ於テハ河幅百間水深十呎乃至十四呎クレストト村及クリユチエフ村ノ邊ニ於テハ河幅二百間水深十四呎乃至十六呎下(ニーヴネ)カムチアツスクニ於テハ河幅四百五十間水深六呎、河口ノ幅ハ六百三十五間ニシテ水深ハ二十呎乃至三十呎ナリトス又河口及海岸ニ洲アリ干潮ノトキハ水深六呎以内ニ降リ滿潮ノトキハ九呎乃至十五呎ニ昇リ水流ノ速度ハ上(ヴエルフネ)カムチアツスクヨリ河口ニ至ルマテ概シテ一時間ニ一里乃至一里半ナリ堪察加ニ合流スル支川ハ一百以上ニ及ヒ其顯著ナルモノハ左方ニキルガナ、キミチナ、クレストウカ、エロウカ等アリ右方ニコウイチア、シチアピナ、トルボチア、ハピチカ等アリ堪察加河ハ其河口ニ於テ短廣ナル一河ト連續シ此河ノ水源ハ堪察加河ノ北ニ於テ周圍二十一里ヲ有スルチルピーチノエ湖ヨリ發ス此湖ノ南ニ又他ノ湖アリクーダハルト稱シ同シク堪察加河ニ連續ス堪察加河ハ島嶼多キモ過半卑低ニシテ砂堆ナラサレハ不毛ノ地ナリ或ハ雜草又

ハ矮楊ノ繁茂スルノミナリ而シテ上流及中流ノ両岸ニハ白楊、赤楊、水楊、楂山、銀松、落葉松等生シ下流ノ沿岸ハ沼澤多クシテ雑草、木賊、矮楊等ヲ以テ蔽ハル、ナリ魚類ハ鱒鮭ノ類夏ノ末ニ向ヒ放卵スル爲メ河ヲ上ルコト甚タ盛ンナリ此外ニ海豹及海鰐ノ河口ノ邊ニ來ルコトアリ此堪察加河ノ両岸ハ半島中ニ於テ氣候ノ最好ナル所ニシテキルガノウスコエ村トウシコウスコエ村トノ間ニハ農業ニ適スル所多クアリ

堪察加河ニ次ク長ヲ有スルモノハチギーリ河(五十三里)トボリシアヤ河(四十九里)ニシテ共ニ痾哥斯克海ニ注キ太洋ニ注クモノハアクチヤ河(アクチンスカヤ灣ニ注ク)、ヂウバノワ河(長四十里シブンスキー岬ノ北ニ注ク)ナリ以上ノ各河ハ舟行ノ便ヲ有スルナリ

半島ニ於ル最大湖ハクロノツコエト稱シ長十三里、幅十一里ニシテ一萬呎ニ達スル高山ニテ圍繞サル、鞍形地ニ在リテルピーチエ湖ハ其周圍約二十一里ヲ有シ堪察加河ノ河口ニ在リ其支流ニ由リ湖河相通シ尚ホ半島ノ南端ニクリースコエト稱スル一湖アリ

堪察加半島ノ氣候ハ其周海ノ影響ヲ蒙ムルコト大ニシテ痾哥斯克海ニ於テハ六月ノ末マテ氷塊ノ浮漂ヲ絶タス而シテ其氷塊ノ漂出スル所ハギ!チカ及ペンジアノ両灣ヲ以テ中央トス白令海峽ヨリ來ル寒流ハ東岸ニ沿ヒ北東ヨリ南西ニ趨ルカ故ニ其ハ涼冷ナリト雖モ冬季ノ寒氣ハ敢テ厳酷ナラスシテペトロパウロウスク市ノ如キニ在テハ攝氏ノ寒暖計氷點以下二十五度ニ降ルコト稀ナリ唯、痾哥斯克海ニ面スル海岸ノミ時トシテ水銀ノ凍結スルコトアリ而シテペトロパウロウスク市ニ於ル一年間ノ温度ヲ示セハ左ノ如シ

一月	攝氏寒暖計氷點以下	八度四
二月	仝	一〇度〇
三月	仝	四度七
四月	仝	〇度九
五月	仝	四度三
六月	仝	一〇度三
七月	仝	一四度六
八月	仝	一四度八
九月	仝	一〇度八
十月	仝	四度四
十一月	仝	氷點以下 一度四
十二月	仝	六度二
平均	仝	二度二

氣候ノ良好ナル部分ト稱スルハ各河ノ流ルハ低地ニシテ海風ヲ遮ル所トス特ニ堪察加河ノ西岸ニ於テハ

冬季ノ平均溫度氷點以下八度七、夏季ハ氷點以上十四度三ナリミリユオク村ノ如キハ氷點以上十七度八ナリ

雨、露、霜、雪ハ饒多ニシテ夏ハ海岸ニ濃霧起リ易ク晴天ノ日甚タ稀ナリ冬ハ東岸ニ於テ積雪ヲ見ルモ西岸ハ其雪頗ル淺キニ似タリ

植物

半島ノ植物ハ濕氣ノ饒多ナルカ故ニ概シテ美麗ニシテ且ツ液汁ニ富メリ獨リ丘岡ニテ起伏セル北部ノ高地ハ樹木無ク蘚苔ノミナルモ其他ハ山腹河畔共ニ植物ノ繁茂スルヲ見ルヘシ森林ノ樹木ハ柏、杉、樺等多ク銀松、落葉松ハ獨リ堪察加附近ノ山ニ生スルノミナリ海岸ノ邊ハ森林稍〻少シ又草ノ類ハ所ニ依リ四呎以上ニ成長シ晩秋マテ枯レス或ハ夏中三回モ刈収シ得ルモノアリ

動物

動物ハ大陸ニ於ル西伯利ト異ナリテ栗鼠、麋其他棲息セサルモノアレトモ森林中ニハ熊、獾（アナグマ）、狐、黑貂、馴鹿等棲息シ海岸附近ニハ各種ノ海豹、海馬及鯨、鰯等集レリ而シテ臘虎ハ現時既ニ捕獲シ盡シタルカ如シ

人種及人口

堪察加人ハ自ラ稱スルニ「イテリンメント」人ノ名ヲ以テシ其住居スル所ハ堪察加半島ノ南部過半ヲ占メ而シテ堪察加ノ名ハ之ト隣接シテ其北部ニ住居スル「コリヤーク」人ノ附シタルモノニシテ即チ終端ノ義ナリ

露國人ノ堪察加ヲ發見シテ之ヲ征服スルヤ其哥薩克兵ノ暴虐ニ堪ヘスシテ一七三一年ト一七四〇年ニ堪察加人ハ二回反旗ヲ飜ヘタルカ直ニ鎮壓セラレテヨリ其以後平穩ニ今日マテ露國人ニ屈從セリ

ステルレル及クラシエニンコフノ両學者カ堪察加ヲ旅行シタル頃ハ僅カニ石器時代ヨリ鐵器時代ニ移リタル際ナリシカ之レ露國人ヲ待テ始メテ鐵器ヲ使用スルニ至リタルニアラス千島人又ハ日本人ヨリモ傳授サレタルモノナラン堪察加人ハ其容貌ニ於テ蒙古人種ニ似タル所多シト雖モ亞細亞ノ北東端ニ於ル人民ト亞米利加ノ北西端ニ於ル人民トヲ混シタルモノニ近シ身幹ハ高カラス寧ロ低キ方ニシテ皮膚ハ薄黑キモ敢テ醜陋ナラス會〻婦人中ニハ愛嬌多キモノアリ言語ハ喉音高クシテ「コリヤーク」人ト全ク異レリ然レトモ現時ハ土語漸ク絶ヘテ一般ニ露語ヲ用ヒ風俗モ從テ露國ニ化セリ

人口

堪察加半島ノ人口ハ一八八八年ノ調査ニ依レハ七千百九十九人ニシテ男三千六百四十五人、女三千五百五十四人ナリ一八七九年ヨリ八八年ニ至ル十年間ノ繁殖力ハ千分ノ百五ニ當リ異人種ノ數ハ之ヨリ多シ而シテ半島北部ノ南ニ於テ北緯五十七度マテハ土著及遊牧ノ二種ニ區別サルヽ「コリヤーク」人住ミペンシヤ灣ノ沿岸ニハ土著セル「カメチーツ」人及「バレチーツ」人住ミ北西岸ニハ「ウキーチツ」人及「オリユトレツ」人住ミ而シテ遊牧スル「コリヤーク」人ハ其數千七百五十人ニシテ鹿群ヲ率テ北緯五十七度マテ徘徊セリ「アポリクン」人ハ堪察加人ニ算入サルヽカ渡來人種ノ内ニシテ中央山脈ノ西側ニ遊牧スル「ヲムーツイ」人ハ「ツングーズ」人種ニ屬スルモノトス露國人ハペトロパウロウスク及其他ノ小村落ニ住ミ而シテ其村落中ノ顯著ナルモノヲ擧クレハ上カムチアツスク、下カムチアツスク、ポリシエレツク、チギー

リ等ニシテ以前ハ堡塞ヲ置カレタルカ現時ハ貢税ヲ徴收スル哥薩克兵ノ屯在スル所ナリ

宗教

人民ノ過半ハ正教ヲ信仰シ其洗禮ヲ受クサルハ僅カニ一部分ノ「コリヤーク」人ノミナリ

漁業

人民ノ生活ヲ保ツ所ハ漁業ニ在リ而シテ其魚類ハ種々アレトモ專ラ鱒鮭ノ如キモノニシテ毎年堪察加河ニ上リ放卵スル爲メ夏ノ半或ハ末ニ非常ノ群ヲ以テ來リ稍〻一ケ月間ハ河中塡塞シテ相互ニ壓死スルニ至ル之ヲ「ミツデシドルフスキー」來行ト稱ス即チ死ヲ求メニ來ルノ義ナリ人民ハ此時ヲ以テ一ケ年ノ貯蓄ヲ爲セリ其他各灣ニ於テ捕獲スル鰊甚タ盛ンナリ魚類ノ饒多ナル斯ノ如シト雖モ時トシテ其收獲非常ニ僅少ニシテ飢饉ニ苦シムコトアリ是レ魚類ハ人民ノ常食品タルノミナラス馬ニ代用スル犬ニモ飼料トシテ供スルカ故ニ甚タ重要ナリ此半島ニ於テハ鹽ノ乏シキヲ以テ魚類ハ大概干乾シ或ハ穴倉ニ貯藏サルルナリ

獸猟

獸獵ハ漁業ニ次ク重要ナルモノニシテ黑貂、黃鼠、狐、鹿、熊、獾、海豹、海馬、水獺(カワウソ)等ナリ

牧畜

堪察加半島ハ牧草多クシテ牧畜ニ適當スルヲ以テ官ニ於テ奬勵セリト雖モ未タ著シキ効果ヲ收メサルハ一ニ勞働者ノ不足ニ因リ冬季間ノ乾草ヲ準備スル能ハサルカ爲メナリ一八六九年ヨリ八九年ニ至ル家畜ノ數ハ左ノ如シ

	馬	牛	馴鹿	合計
一八六九年	六一八頭	二、九九〇頭	六七、〇〇〇頭	七〇、六〇八頭
一八七九年	六八〇頭	二、四一五頭	一二、三一九頭	一五、四一四頭
一八八九年	六五五頭	一、八三二頭	四三、三〇〇頭	四五、七八七頭

馴鹿ヲ多分ニ所有セルハ「ラムーツ」人及「コリヤーク」人ニシテ冬ハ之ヲ泥地或ハ平岡ニ縱チ夏ハ蚊ヲ避クル爲メ山上ニ逐ヒ遣レリ

農業

農業ハ前々世紀ヨリ奬勵シ普及ノ端緒ヲ開キシヨリ今日ニ及フマテ隆替アレトモ能ク繼續シテ廢絕スルニ至ラス而シテ半島ノ農業ニ就テ巡回者ノ調査シタル意見ニ依レハ其說區々トシテ或ハ前途大ニ望アリト謂ヒ或ハ全ク絕望スヘキモノナリト謂ヘリ一八三〇年ニ堪察加農業會ヲ設クラレ八千圓ノ費用ヲ投シ穀物ノ耕作ヲ試驗セシカ七年ヲ經テ廢止セリ而シテ其之ニ至リタルハ季候ノ濕氣勝ニシテ常ニ烟霧霧レサル等第一ノ原因ナリ尤モ播種後ノ成長ハ迅速ニシテ葉莖共ニ美麗ニ發育スルモ既ニ八月ノ末ニ至ラハ降霜ノ爲メ直ニ萎枯シ收獲スヘキモノ無カラシムルナリ然レトモ半島ニ於テ農業ニ適當ナリト爲サルヽ所ハ堪察加河畔ノ土地ニシテ馬鈴薯ハ特ニ最上ナリトス又蕪菁、蘿蔔、胡蘿蔔其他ノ野菜ハ液汁ニ富ミ且ツ其收獲モ多量ナリ

工業

「パレーテツ」及「カメチーツ」ノ如キ異人種ハ鍛冶ニ巧ミニシテ刀、槍、斧及婦人ノ腕飾用銅環ヲ製作シ「オリユトレツ」人ハ海馬ノ牙ヲ以テ烟管、匙子及茶碗等ヲ製作シ「コリヤーク」人ハ鹿及海豹ノ革皮ヲ精

製スルナリ

貿易

半島ニ於ル貿易ハ總テ「フヒリツペウス」會社ノ代理店一手ニ掌握サレ貨物ハ麥粉及「チエルカスキー」烟草ヲ除キ桑港ヨリ輸入シペトロパウロウスク市ニ於ル住民ノ外ハ貨幣ノ通用ヲ知ラス貿易品ハ幾ソト毛皮ヲ以テ最上位ト爲シ又此毛皮ト柔革及海馬牙其他異人種ノ獵獲シタル品物ハ烟草、砂糖、茶、麥粉、織物小銃及銅鐵製ノ器具等ニ交換シ火藥及鉛塊ハ官ヨリ土人ニ原價ヲ以テ販賣スルナリ

半島ノ占領

露國人カ堪察加ヲ發見シタルハ十七世紀ノ末ニシテ探檢者ナル哥薩克兵カ異人種ヨリ貢稅ヲ徵收セントスル目的ヲ以テヤクーツスクヨリ北氷洋ニ下リ東ニ回クリテ未タ白令海峽ノ發見セラレサル前ニ於テ同海峽ヲ經テチウコツスカヤ地（ゼムリヤー）ヲ周リ白令海ニ注クアナヂイリ河ノ上流ニ於テアナヂイリ堡塞ヲ築キ此所ヲ根據トシテ其土地ノ毛皮ニ富メルヤ土人ノ溫和ナルヤ將タ猛獰ナルヤヲ調査シ一六九七年哥薩克兵五十人長アトラソフハ哥薩克兵（モロスゴ）外六十人ヲ隨ヘアナヂイリヲ出テ同年若干ノ堪察加人ヲ服從セシメ之ニ貢稅ヲ課シ上カムチアツスクノ貢民地ニ越冬所ヲ開ケリ一七〇〇年ヤクーツスクヨリコペリヨフナル者哥薩克兵ノ一部隊ヲ率ヒ堪察加人ノ露國人ニ對シ反旗ヲ擧ケタルモノヽ討伐ニ援助ヲ爲シ之ニ鎭壓シテ南ニ進ミポリシエレーツキー及下カムチアツスクノ二堡塞ヲ築ケリ一七〇四年哥薩克兵五十人長カリヨーソフ其兵ヲ率テ半島ノ終端ニ至ルマテ悉ク征服シテ貢稅ヲ課セリ其後十二年ヲ經テ露國人ハ始メテ痾哥斯克ヨリ海路ニ由リ堪察加ニ達シタリ前々世紀ノ半ハマテ半島ノ管理ハヤクーツスク駐在ノ武官ヲシテ其部下ノ哥薩克兵五十人長或ハ其兵員ヲ以テ貢稅ヲ徵收セシメタルカ彼得大帝ノ時ニ至リ特ニ長官ヲ置キ港灣ノ地形ヲ調査シ上陸ニ便利ナル所ニハ防禦工事ヲ施サシメ茲ニ始メテペトロパウロウスクナル一市ヲ開カレタルナリ

堪察加長官ノ駐在所ヲポリシエレーツクニ置キ一七一九年彼得大帝ハ堪察加ニ向ケ二人ノ地質學者ヲ派遣セリ一七三〇年及一七四一年ベリングナル者天文學者テリ、デ、ラ、クロイエルヲ隨ヘ續テクメリン及ストテルレルノ博物學者二人半島ヲ巡回シ一七三三年ヨリ一七四五年マテクラシエニンコフノ遠征隊ハ大ニ探檢ニ力ヲ盡セリ一七七六年シヨレホフナル者堪察加ノ土地開發ヲ目的トシテ露米會社ヲ起シタリ堪察加ハ前々世紀ノ半ヨリ危險ナル犯罪人ヲ謫流スル所ト爲リタルカ其罪人屢逃走セルコトアルヲ以テ遂ニ此所ニ謫流スルコトヲ罷メタリ

一七九九年半島ニ熱病ト疱瘡流行セシ爲メ死亡スル者五千人ニ達セリ其後戶籍調査ヲ爲シタルトキハ堪察加人ノ男子ハ千三百三十九人ニ止レリ

一八〇三年堪察加知事ヲ置キ其駐在所ヲ下カムチアツスクニ定メ半島ノ植民ニ力ヲ致サシメ露國ヨリ農民五十戶ニ對シ其壯丁ノ兵役ニ代ヘテ堪察加河畔ニ移住セシメタリ而シテ一八一二年堪察加ニ文武ノ官衙ヲ制置シタル以來今日マテ施政ノ大體ヲ變セサルナリ一八五二年更ラニ露國ヨリ農民ヲ移住セシメ其外ニ西部西伯利及東部西伯利ノ先住者二十五戶ヲ堪察加河畔ニ轉住セシメタルモ其翌年ヨリ戰爭ノ爲

メ植民事業ハ廢止サレ既ニ堪察加ニ向ヒ出發セシメタル農民五十一戶ヲ黑龍江口ニ移住スルヿト爲レリ」

一八五四年英佛聯合艦隊ノペトロパウロウスク市ヲ攻擊スルヤ市民ハ勇ヲ奮テ之ニ當リ微弱ナル勢力ヲ以テ二日間防戰シ三百人ノ露國部隊ハ敵ノ陸戰隊九百人ニ向ヒ突貫シテ其三百人ヲニコリスカヤ山ノ崖ヨリ海中ニ衝キ落シ遂ニ敵ノ艦隊ヲ擊退シタリ

黑龍江邊境ヲ露國ノ領土ニ合併スルニ及ヒ露國政府ハ堪察加ヲ沿海州內ニ入レテ其一區ト爲シペトロパウロウスク市ニ監督官ヲ置キ從前ノ行政法ヲ改メタリ

ペトロパウロウスクハ堪察加半島ノ東岸ニ於ル一港ニシテ沿海州ノ一區市ナリ其名ハ同海岸ニ始メテ越冬シタル二船「ペートル」及「パーウエル」ノ名ヲ合併シタルモノナリ港灣ノ周圍ハ一里町二十五間ニシテ內港及外港ノ二區ニ分レ其水深ハ七尋乃至九尋ナリ各方位ノ風ヲ遮蔽スルヲ以テ船舶ノ越冬及修理ニ適スルヿト世界ニ其類少シトス

市民ハ一八九六年ノ調査ニ依レハ男三百六人、女二百五十三人ニシテ合計五百五十九人ナリ又信教ヲ以テ之ヲ區別スレハ正教徒五百二十一人、加特力教徒九人、「プロテスタン」教徒二人、佛教徒二人、孔教徒五人ナリ而シテ市ノ歲入ハ千百十五留ニシテ歲出ハ九百六十五留ナリ

コマンドルスキー列島

コマンドルスキー列島ハベリング及メドニノ二大島トアリ、カーメニ及トボルコフノ二小島ヨリ成立シ同シク露領沿海州ニ屬シ堪察加ノペトロパウロウスク港ヲ去ルヿト北東三百海里ニシテ緯度東經百六十五度四十五分乃至百六十八度十二分及北緯五十四度三十二分三十秒乃至五十五度二十分ノ間ニ位シ其二大島ハ孰レモ北西ヨリ南東ニ向ヒ伸長セリ而シテベリング島ハ長約二十二里幅約二里ニシテ北部ハ海面ヨリ少シク突起スルニ過キス沼湖ニ富ミ就中サランノエ湖ハ島中第一ト稱ラレ長約二里幅約一里ニ及ヘリ山脈ハ中央部ヨリ南端ノモナチ岬ニ亘ルモノアリ又メドニ島ハ其形細狹ニシテ長約十里ニ達スルモ幅ハ僅カニ半里乃至一里ヲ出テス島中ニ屹立セル尖山アリ而シテ此二大島ノ最短距離ハ三十海里ニ過キサルヲ以テ晴天ノ日ハ互ニ望見シ得ヘシ船舶ノ碇泊ニ適スル港灣ハ二島共ニ之レヲ有セスシテ小船ニ非ラサレハ其海岸ニ寄泊スル能ハス然レトモ其氣候ハ冬ハ頗ル溫暖ニシテ夏ハ涼冷ナルカ故ニ周年秋ニ似タリ夏ノ溫度ハ風ヲ遮キル所ニ在テハ時トシテ攝氏二十度ニ昇リ冬ト雖モ同十五度乃至十度ノ下ニ降ルヿト無シ雲霧雨雪多ク晴天ハ一ヶ年間百分ノ三ヲ超ヘサルナリ植物ハ至テ乏シク樹木ノ如キハ皆無ナリト謂フヲ得ヘシ

住民ハ膃肭及膃虎ノ外ニ魚鳥ヲ捕獲スルヲ生業トス而シテ膃肭及膃虎ノ獵業ハ一八七一年米國「アリスヤ」會社ニ一旦讓リシカ更ラニ一八九一年ヨリ露國ノ會社ニ讓レリ

茲ニ一八七八年ヨリ一八八二年ニ至ル捕獲數ヲ示セハ左ノ如シ

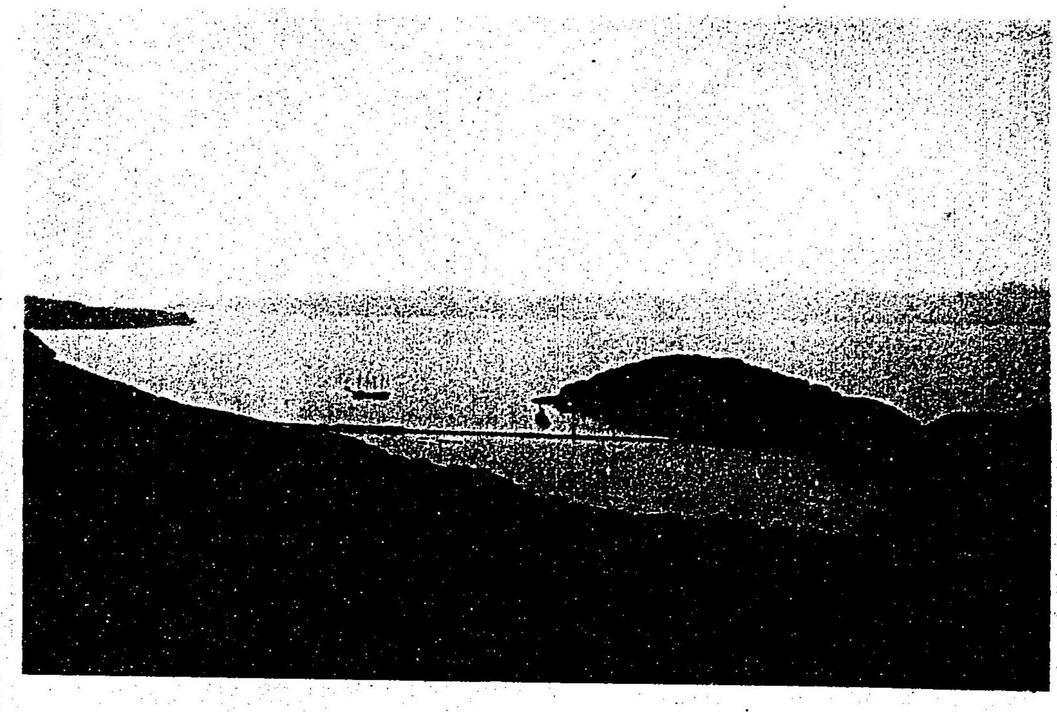
	臘	肭	臘	虎	北極狐
一八七八年	三一、三四〇頭		九四頭		
一八七九年	四二、七五〇頭		二〇頭		一、三九〇頭
一八八〇年	四八、五〇四頭		一二八頭		五〇三頭
一八八一年	四三、五二二頭		一九〇頭		
一八八二年	四八、〇〇〇頭		二〇〇頭		二、五〇〇頭

カラギンスキー島ハ北緯五十度十二分乃至五十八度二十八分ノ間ニ位シ堪察加ノ東岸ニ接シテ白令海ニ在リ其長ハ北々東ヨリ南々西ニ亘リ約二十六里ニシテ幅ノ最大ナル所ハ約六里ニ達シ約七百方里ノ面積ヲ有ス而シテ全島四分ノ三ハ山脈ノ起伏スル所ニシテ高サ二千呎ニ及フ山嶺アリ其南東ノ一側ニ屬スル群山ハ海岸ニ向ヒ趨リテ懸崖斷岬ヲ以テ終ハレリ沿岸ニ小灣アレトモ船舶ノ碇泊ニ供スヘキモノ無シ唯南西端ノ先ニ於テ其海岸ノ東ニ屈折スル所ニ水深六尋乃至九尋ノ小灣アリテ較〻船舶ノ碇泊ニ便利ヲ有スヘシ

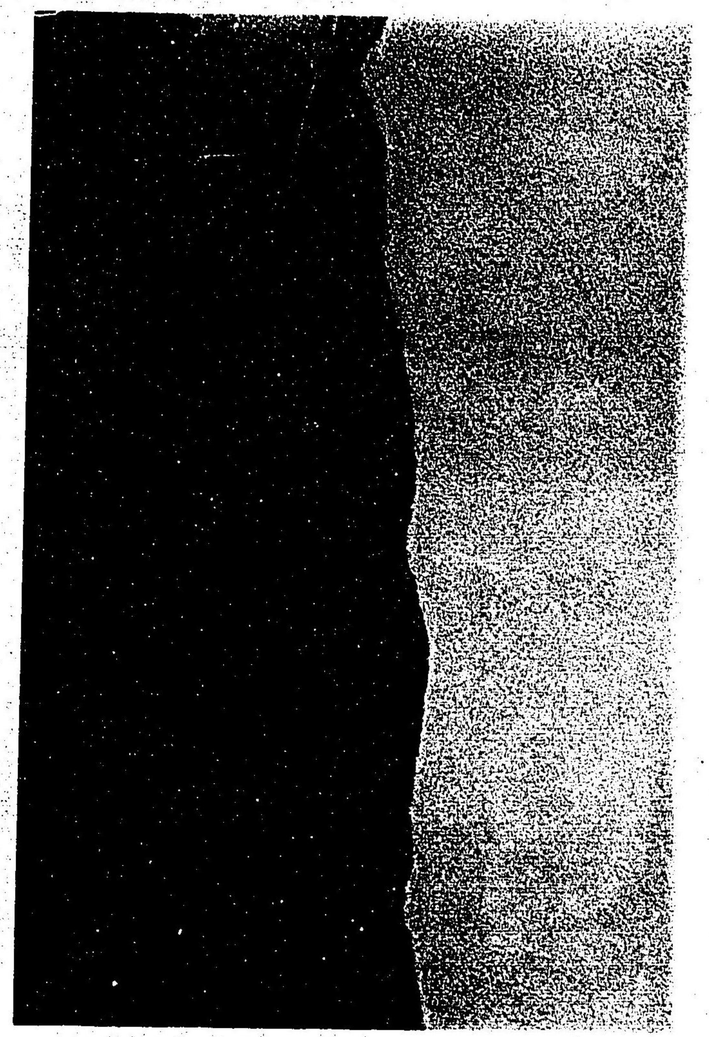
アワチヤ灣トペトロパウロースク港

アワチヤ灣ハ堪察加半島ノ東南部ニ在リ四方各十海里餘ノ大灣ニシテ水深六七尋乃至十六七尋水底砂泥四圍ハ高山相連リ風浪ノ慮ナク船舶ノ避難ニハ最好地ナリ灣ノ東部ニペトロパウロースク港アリニコライスク半島ハ北ヨリ南ニアワチヤ灣口ニ向ヒ突出スルコト約十町ナリトス

港内ニ碇泊セル左方小帆船ハ露帆「カメラン」號(漁用)漸次右ニ四檣ノ帆船ハ米帆「ミリユエル」號(米國ヨリ麥粉其他雜品ヲ輸入ス)灣口ニ向ヘル瀛船ハ露瀛「バイカル」號(室蘭港ヨリ石炭ヲ輸入秋期鹹魚ヲ輸出ス)



ニコライスク半島ノ南端ニ碇繫セルハ露帆「ベーリング」號(コンマンドル島ニ雜品皮チ桑港ニ輸出ス運送秋期鰊肝獸腦虎毛)右端ナルハ露艦「ヤクート」號ニシテ漁業監視海獸監視及ベーリング海沿岸警備ノ爲メ浦港ヨリ出帆セルモノナリ

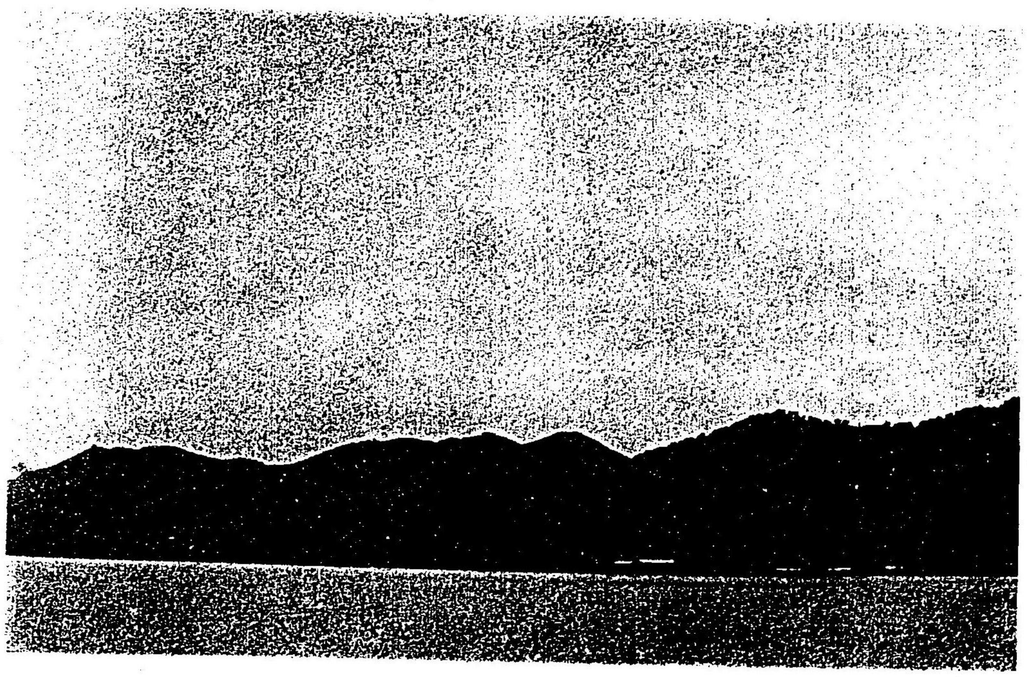


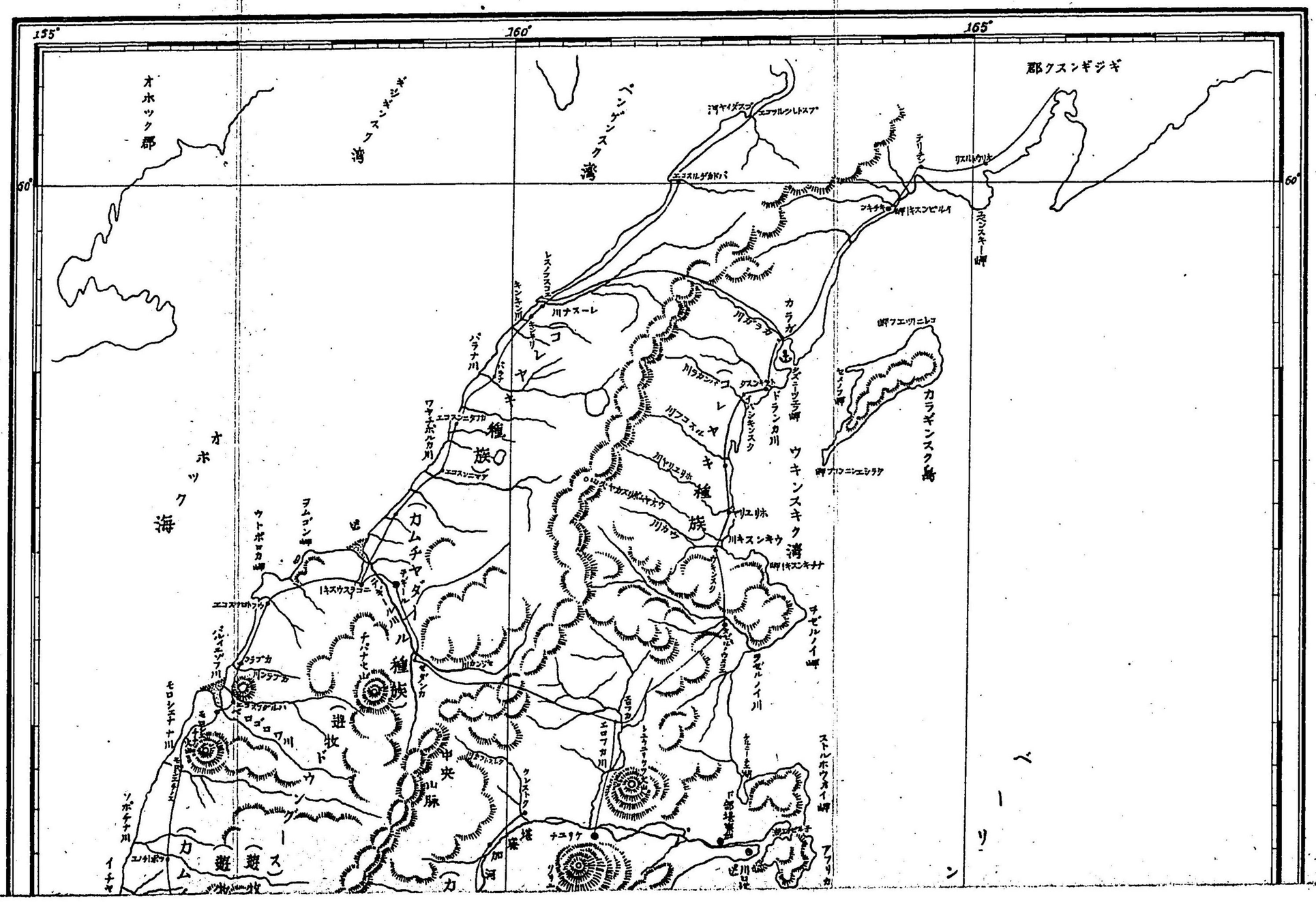
ハロウスローロ　府中郭市街、戶數七十六、人口四百〇二人

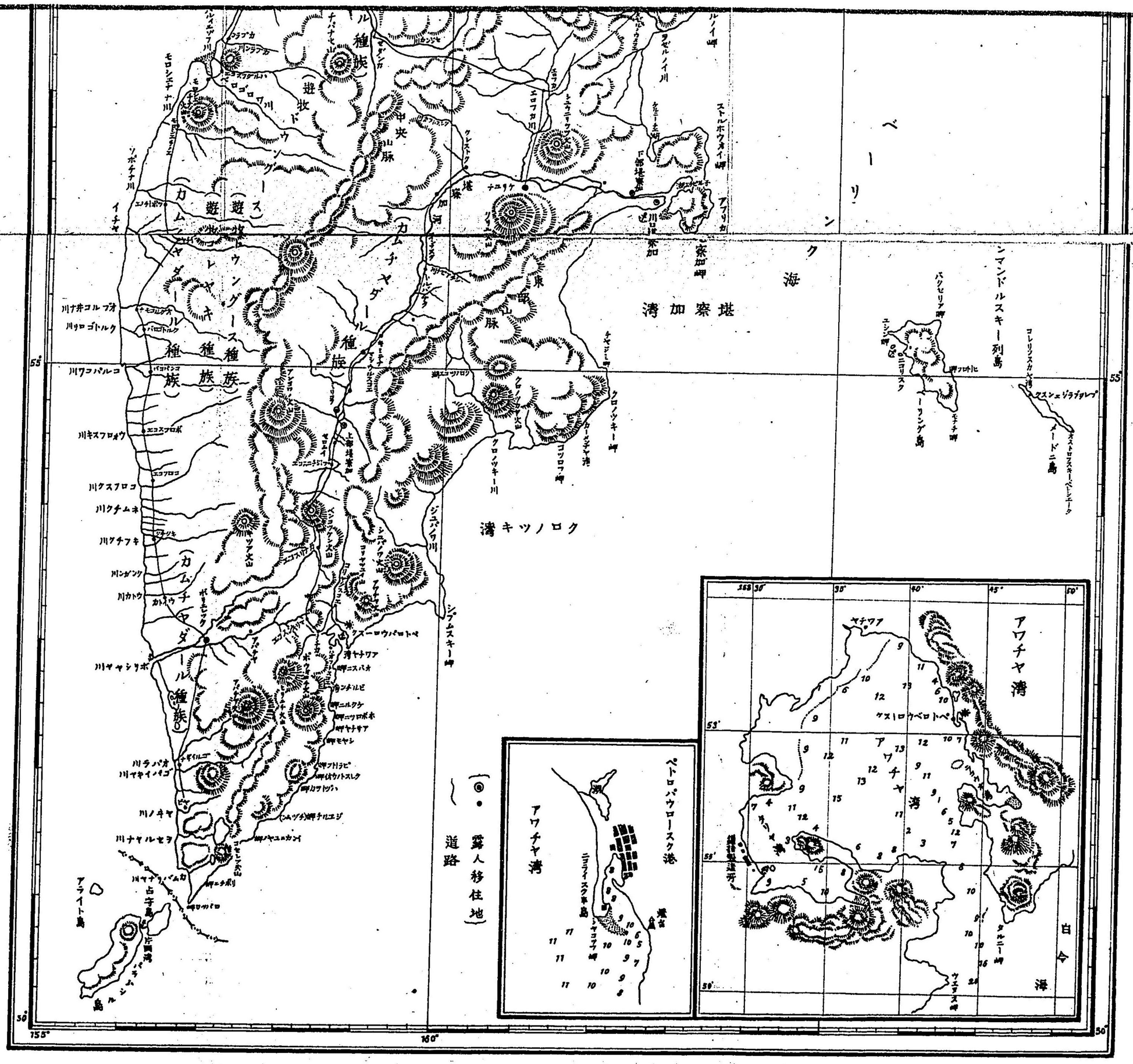
クリヤ灣

アクチヤ灣ノ西南部ニ在リ海上廣濶ニシテ深シ現時露國「コチク」會社ハ堪察加商會ト名ツケテ本店ヲペトロパウロースク府ニ置キタリヤニ鏈詰製造所ヲ建築シ鮭鱒ノ製造ニ從事ス但シ製造所ハ目下其一部竣工セルモノナリ一年中ノ製造總額三十五萬鏈ノ豫定ナリト

元來鮭鱒製造ニ着手スルニ至リタルハ漁スルニ日本漁夫ヲ使用シ十分ノ漁獲ヲ得ルノ見込ナリシニ黑龍沿道總督府管内海産業假規則ノ施行トナリ日本漁夫ノ使用特許ヲ請願シタルモ否許セラレタル結果十分ナル漁獲ヲ得ス爲メニ其ノ製造高モ見込額ヨリ減スヘシト信ス




155°
160°
165°
50°
60°
オホック郡
オホック海
ペンゲンスク湾
郡クスンギジギ
ウキンスキク湾
カラギンスク島
カムチヤダール種族
遊牧ドウング
カムチヤダール種族
中央山脈
カムチヤ川
カラガ
ドランカ川
ペーリング


ベーリング海
堪察加湾
ロノツキー湾
アワチヤ湾
白令海
ペトロパウロースク港
アワチヤ湾
ニコライスク半島
カムチヤダール種族
遊牧ドウングース
中央山脈
東部山脈
ロノツキー川
ジユバノワ川
ロノツキー岬
ゴツロフ岬
カーツチヤ湾
ストルホウイ岬
ブリカ岬
ムーマンドルスキー列島
コレリスカヤ湾
メードニ島
ベーリング島
ニコリスク
ペトロパウロフスク
ケスロカベロトペ
ウエヤス岬
タルニー岬
ヤナワア
アライト島
占守島
片岡湾
55°
50°
155°
160°
◎ 露人移住地
道路

雄物ハ即チ是等將士ノ墓地ナリ

左方ノ山地ハ「ハンタロヌ」附近ノ高地ニシテ土民ノ曰ク彼ノ樹木ハ千八百五十四年ヌルタ見ル所ニ依リテ成長セシモノナレバ何人モ此ノ森林ヲ伐採スヘキモノニアラス

西暦千八百五十四年八月英佛聯合艦隊ハ「ロンタン」附近ニ上陸シモ敵ハ利アラスシテ將士ヲ失ヒタリ

Y
書庫

法律資料第一號
27.9.26
調查立法考查局